

旧制松山高等学校を歩いてみよう

絵解き 地図と写真で歩く旧制高校

旧制高校を世界遺産にしよう

丹野義彦 （東京大学教養学部心理・教育学部会）

旧制松山高等学校を歩く

旧制松山高等学校は、1919年（大正8年）に第12高等学校として開校した。1950年（昭和25年）に廃止されて、愛媛大学文理学部へと受け継がれた。現在は、愛媛大学持田キャンパスとなり、愛媛大学附属中学校・小学校が使っている。

松山高校に関する場所は、いずれも路面電車やバスで簡単に回ることができる。松山市は、路面電車が縦横に走り、公共交通の便がきわめてよい。愛媛に行く機会があったら、ぜひ松山高校の跡を訪ねてみよう。

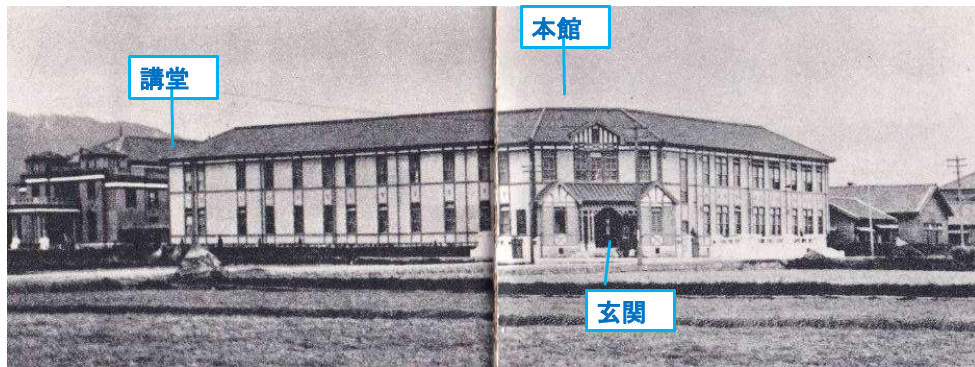
<目次>

1. 松山高校は今はどうなっているか
2. 松山高校へのバーチャル・ツアー
3. 松山高校の歴史
4. 今に残る松山高校の跡
5. 松山と松山高校生
6. 旧制高校を世界遺産にしよう

1. 松山高校は今はどうなっているか

1-1. 松山高校の建物

松山高校の校舎

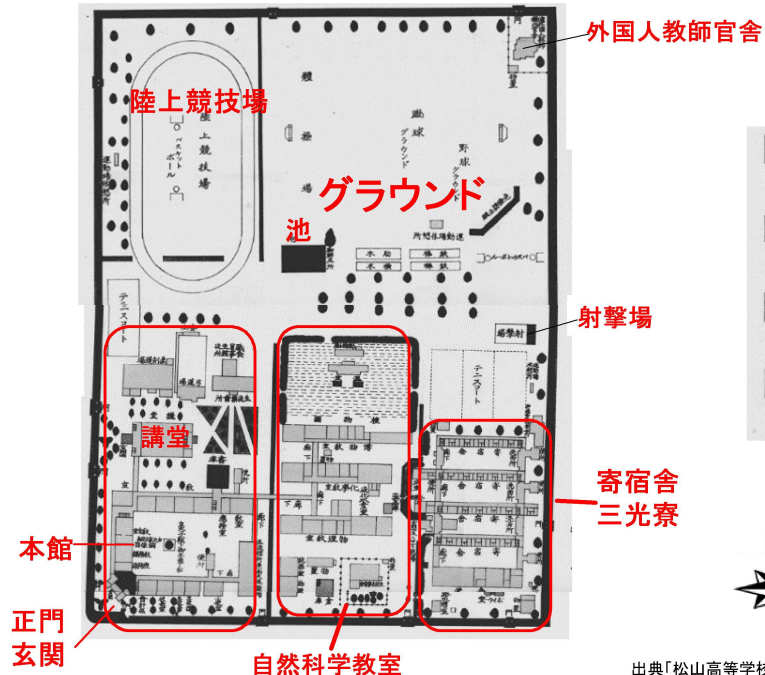


出典『わが青春 旧制高校』

この写真は、1919 年（大正 8 年）の開校当時の本館の建物である。2 階建てのモダンな洋館であり、中央に玄関がある。左側には講堂が見える。キャンパスの前には田んぼが広がっている。

1-2. 松山高校のキャンパス配置 全体

松山高校のキャンパス配置 全体



出典「松山高等学校一覧」

『松山高等学校一覧』という資料に、キャンパスの配置図が載っている。これは国立国会図書館デジタルコレクションで見ることができる。 <http://dl.ndl.go.jp/>

キャンパスの南側が校舎であり、北側が運動場である。

南側の校舎は3つに分かれている。西側には本館と講堂、中央部には自然科学教室、東側には寄宿舍（三

光寮)がある。

キャンパスの北側は運動施設である。陸上競技場、体操場、蹴球グラウンド、野球グラウンドがある。スポーツが重視されていたことがわかる。

詳しくは後述のバーチャルツアーで述べる。

キャンパスにはたくさんの門がある。南西の角の正門のほかに、いくつかの通用門がある。西側には講堂の前に2つ、南側に3つ、東側に1つ、北側の外国人教師官舎に1つある。

1-3. キャンパス鳥瞰



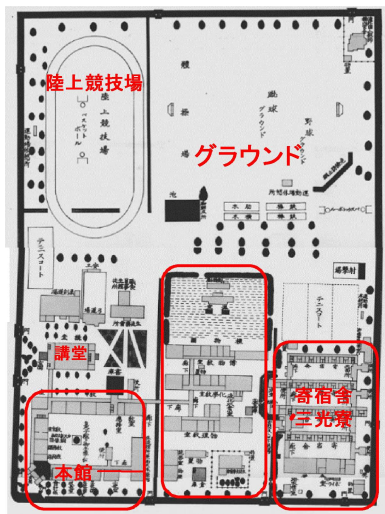
この写真は、キャンパスを北東から見たものである。右側に陸上競技場やグラウンドが見える。左側に本館などの校舎が見える。

松山高校に隣接して奥の方に見えるのは、松山中学校である。松山中学校は、その昔、夏目漱石が赴任し、『坊ちゃん』の舞台となった学校である。漱石の時代は松山市の中心部にあったが、この時は持田地区に移転していた。この松山中学校は、現在では松山東高校となっている。

1-4. 松山高校は今はどうなっているか 地図

松山高校は今どうなっているか 地図

松山高校



松山高等学校一覧



現在 愛媛大学持田キャンパス (附属小学校・中学校)



Goo地図

当時のキャンパスと現在を比べたのが上の図である。

左は、当時の松山高校のキャンパス図である。

右は、現在の地図である。住所は、松山市持田町一丁目である。

愛媛大学の持田キャンパスであり、4つのブロックに分かれている。北から、愛媛大学附属幼稚園、附属小学校、附属小学校が並んでいる。キャンパスの南東部は愛媛大学附属特別支援学校がある。

当時の高校の建物は跡形もなく、キャンパスの配置もほとんど対応がない。当時の本館や自然科学教室の場所は、現在は、中学校のグラウンドになっている。

ただし、松山高校のキャンパス配置は一部残っている。第1に、講堂だけは、現在にもそのまま保存されている。第2に、南西部の角には松山高校の正門が保存されている（後述）。第3に、寄宿舍の三光寮だった場所が特別支援学校になっている。

1－5. 松山高校は今はどうなっているか 鳥瞰

松山高校は今どうなっているか 鳥瞰



出典『白線帽の青春』

現在 愛媛大学持田キャンパス
(附属小学校・中学校)

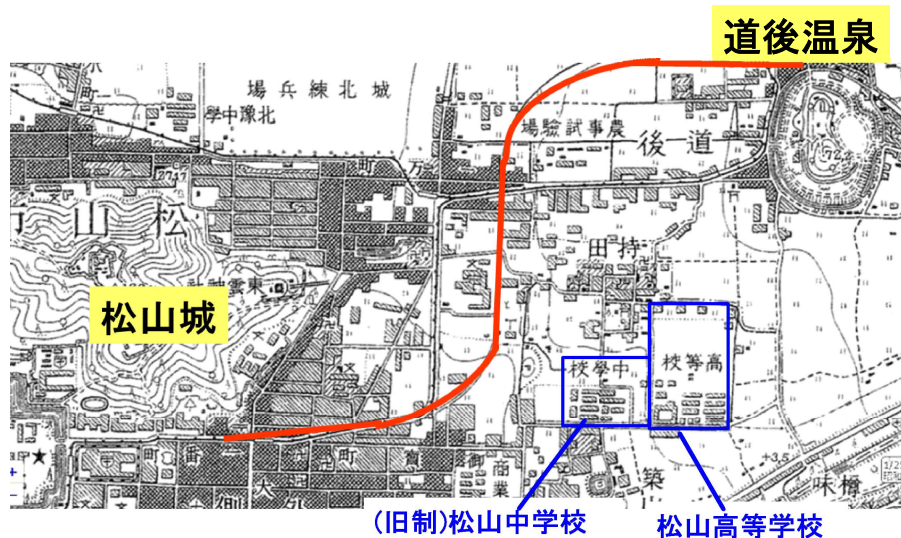


出典 Googlemap

鳥瞰写真について、当時と現在を比べてみた。当時の高校の建物は跡形もなく、キャンパスの配置もほとんど対応がないことがわかる。

1－6. 松山高校の位置 当時の松山市

松山高校の位置 当時の松山市



水田の中にキャンパスが作られた

松山高校の場所について、当時の地図で示してみよう。

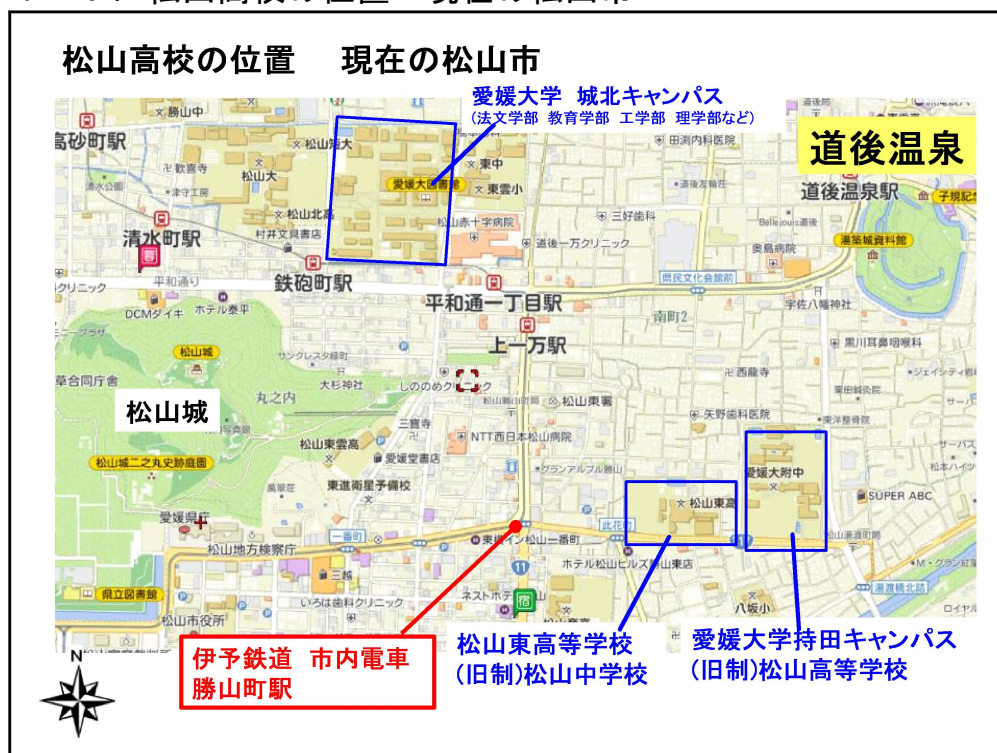
松山市は、松山城と道後温泉が2つの極となって発展した。その間には、赤い線で示すように、道後鉄道という私鉄が走っていた。この鉄道はのちに廃止された。

道後温泉寄りのところに松山高等学校のキャンパスがあった。当時の住所は、愛媛県温泉郡道後村大字持田であった。

この地図をみても、松山高校となる土地は、広い水田地帯であったことがわかる。当時の写真（1－1）からもわかるように、モダンな西洋風の建物は、田んぼの中にポツンと建てられたのである。

また、高校の西側に隣接して松山中学校がある。

1-7. 松山高校の位置 現在の松山市



現在の同じ範囲を示したのが、上の地図である。松山城と道後温泉を中心にして見るとわかりやすい。
旧制松山高校は、1950年に旧制高校が廃止されて、新制愛媛大学の文理学部となった。文理学部のキャンパスは、現在は、愛媛大学持田キャンパスと呼ばれている。
公共交通でいうと、東側に伊予鉄道の市内電車の「勝山町」駅がある。持田キャンパスまでは、駅から歩いて10分ほどである。路面電車は、多くの都市では市営であるが、私鉄が運営しているのは珍しい。また、前の地図の道後鉄道は廃止され、今は、伊予鉄道の市内電車が違うルートを走っている。
なお、旧制松山中学は、現在は、松山東高校となっている。

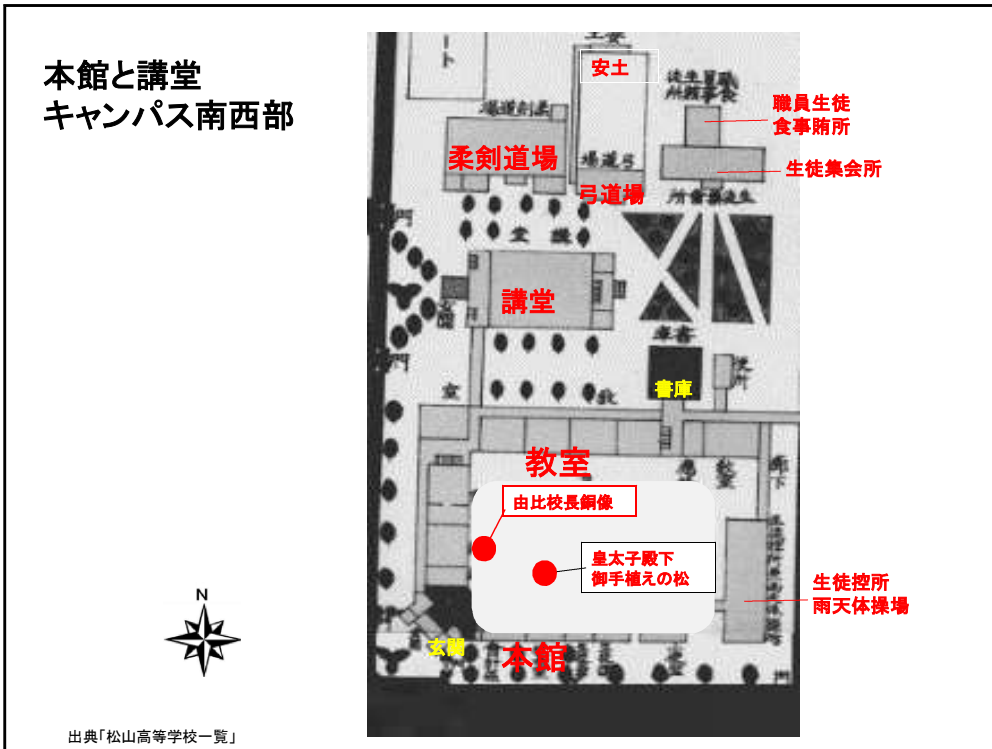
松山東高校は、大江健三郎（1935～）と伊丹十三（1933～1997年）が同期として学んだ高校である。後に大江健三郎は伊丹十三の妹と結婚した。大江の息子光についての小説『静かな生活』は、後に伊丹が映画化した。松山市には伊丹十三記念館があるが、ここはオススメである。伊丹十三は1970年代後半に精神分析に凝って文章を発表していた時期があり、心理学が専門の私は一時期、伊丹にハマっていたことがある。その後、1984年に『お葬式』を発表した伊丹は映画監督として時代の寵児となった。私も精神分析学からは離れていった。しかし、1997年に伊丹は64歳で謎の自殺を遂げてしまった。あれから20年たつが、不可解な事件だったと思う。2019年7月、たまたま伊丹十三記念館を訪ねて、このカフェで、伊丹映画の題名ともなっていた「たんぼぼコーヒー」を飲んでみると、伊丹の享年64にまさに今私がちょうど達していることに気がついた。心の底からあふれてくるものがあった。今でもあの事件が私の心にトゲのように刺さっていることに思い至った。

また、愛媛大学の城北キャンパス（法文学部・教育学部・工学部・理学部など）は、松山城の北側にある。

2. 松山高校へのバーチャル・ツアー

当時のキャンパスはどのようになっていたのだろうか。時空を越えてバーチャルツアーに出かけてみよう。

2-1. 本館と講堂 キャンパス南西部



まず、本館と講堂を見てみよう。

キャンパスの南西の角に本館がある。本館は、上から見ると、匚の字（コの逆向き）の形をしている。

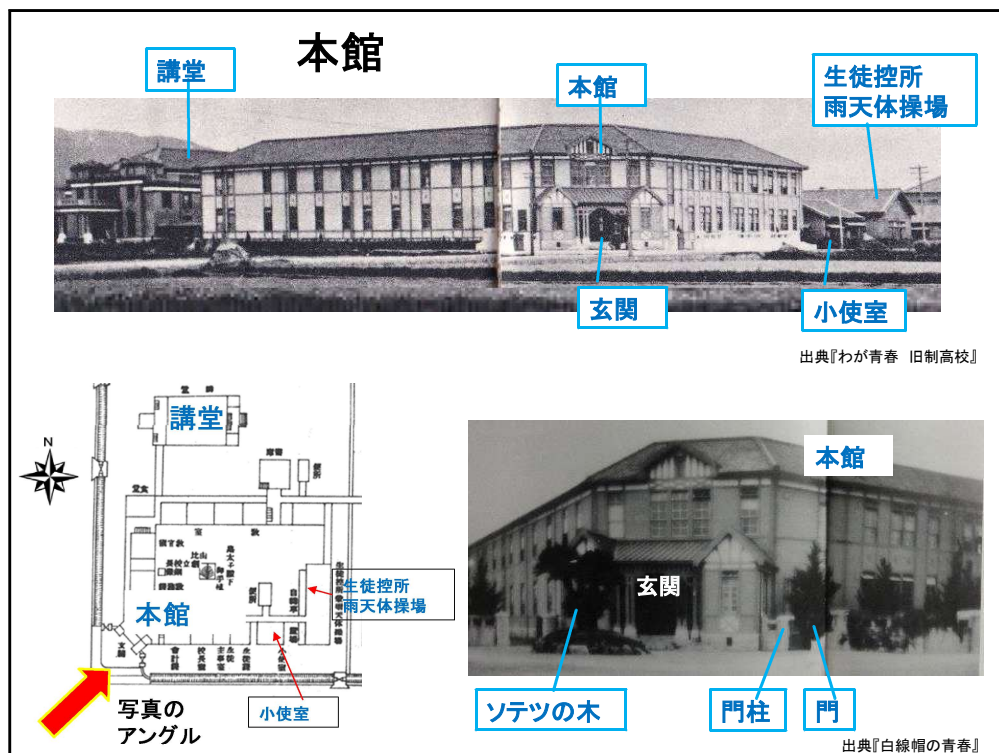
中庭には、由比校長の銅像と、皇太子殿下お手植えの松が立っている。

本館の東側には、生徒控え所・雨天体操場が建っている。

本館の北西には書庫がある。本館の北側に講堂が建っている。校舎のおもな建物は、渡り廊下でつながっている。

講堂の右側の幾何学模様は、梅林である（後述）。その北側に、生徒集会所と職員生徒食事所の建物があある。その西側には、弓道上と安土（的の山）と、柔剣道場がある。

2-2. 本館



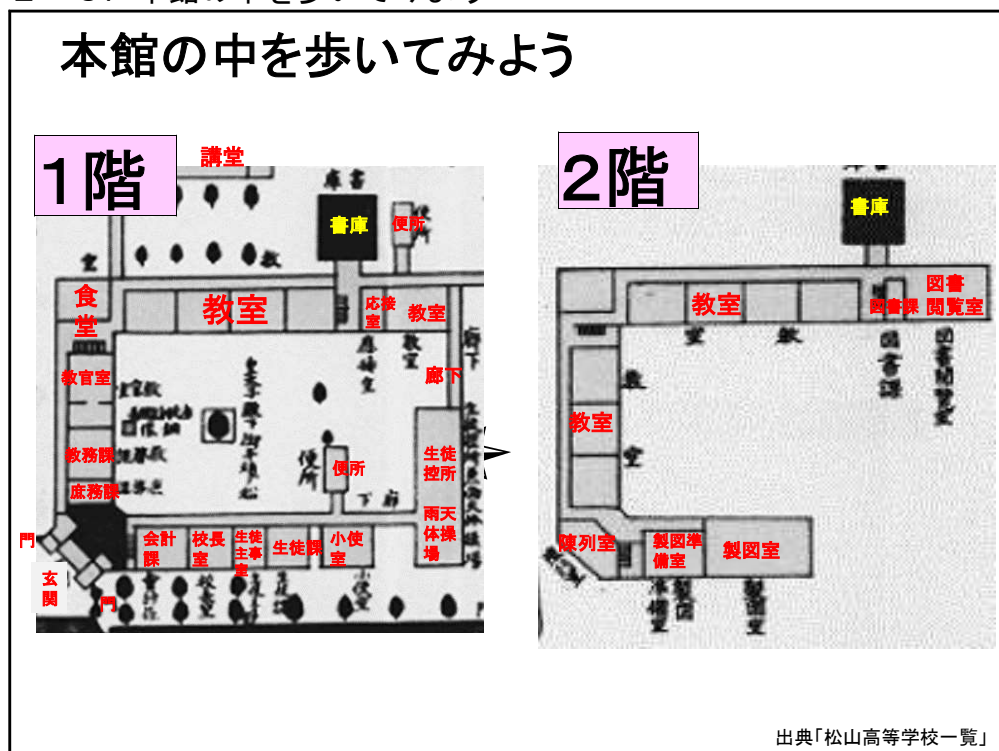
上の写真は、1－1 に示したもので、1919 年（大正 8 年）の開校当時の本館である。2 階建てのモダンな洋館である。三角の瓦の屋根がついているのは和風だが、正面のファサードは西洋風である。中央に玄関がある。

本館の左側には講堂が見える。右側には、小使室と生徒控所・雨天体操場の建物が写っている。

下の写真は、本館を間近に見たものである。玄関の横に門があるのが見える。門の両側に、低い門柱が立っている。後述のように、この柱と門柱が今でも保存されているのである。

また、玄関の前に、ソテツの木が写っている。上の写真の開校当時には写っていないので、このソテツの木は開校後しばらくして植えられたものであろう。後述のように、このソテツの木も今も保存されている。

2－3. 本館の中を歩いてみよう



本館の中はどうなっていたらうか。1 階と 2 階に分けて示してある。

1階は、玄関を入ると、三角形の踊り場がある。右側の廊下を行くと、会計課、校長室、生徒主事室、生徒課と続く。生徒主事は、生徒指導の教員である。その先に小使室があり、廊下を渡って、生徒控所・雨天体操場に至る。

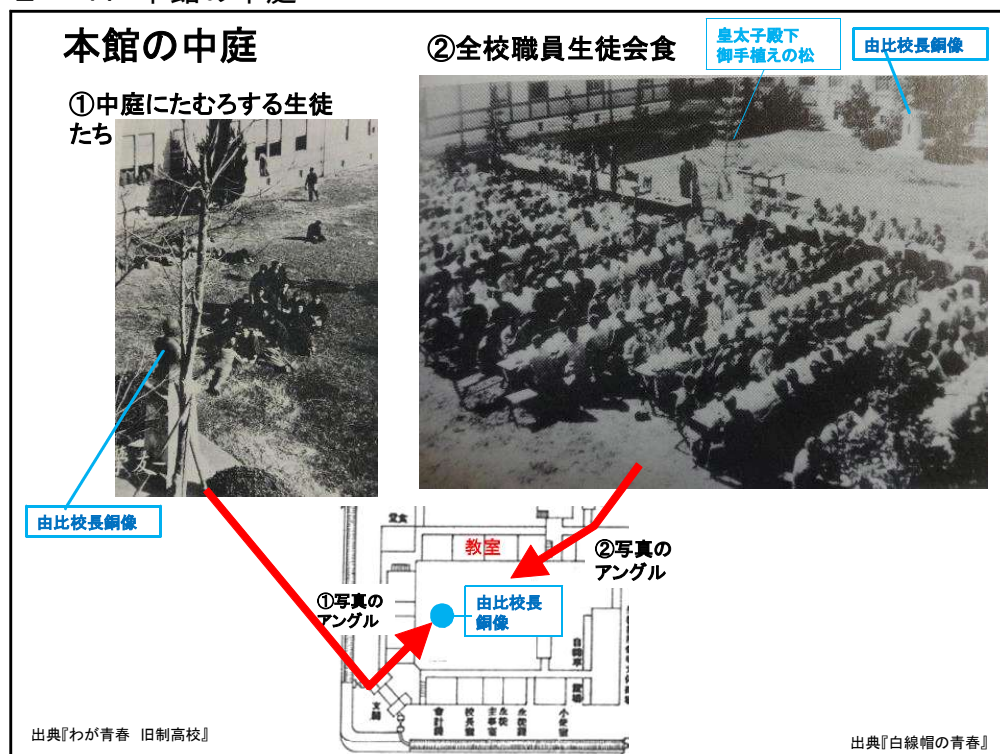
一方、玄関から左側の廊下を行くと、庶務課、教務課、教官室が並び、そこに2階に通じる階段があり、さらに食堂がある。

北側の廊下には、教室が4つ並び、応接室、教室と続く。その北が書庫である。

2階に上がってみると、北側には4つの教室があり、その先は、図書課、図書閲覧室となり、書庫へと通じている。西側には3つの教室がある。南側は、陳列室、製図準備室、製図室が並んでいる。

このように教室は全部で12室ある。1学年4クラス×3学年＝12クラスあったからである。

2-4. 本館の中庭



中庭には、「由比校長の銅像」と、「皇太子殿下お手植えの松」が立っている。

左側の写真①は、由比校長の銅像の裏側から中庭を見下ろしたアンクルである。中庭といっても相当な広さがあり、学生たちがたむろしている。

右側の写真②は面白い写真である。この中庭で、由比校長の銅像を前にして、全校職員と全生徒が集まって会食している。毎年、何回かは全校職員と全生徒が集まって、会食したり、集会が開かれた。これは初代校長由比質がとなえた「大家族主義」を示すものである。それだけ由比校長の影響力は強かった（後述）。

写真の上の方の列には、教員たちがネクタイをして座っている。中央では、校長らしき人物が立って挨拶をしている。中央に立つ木が「皇太子殿下お手植えの松」であろう。

下の方の列には、学生たちがテーブルの前で話を聞いている。テーブルには、それぞれの食事が置かれている。

2-5. 講堂

講堂(1922年完成)



今も残る講堂の正面



写真の
アングル

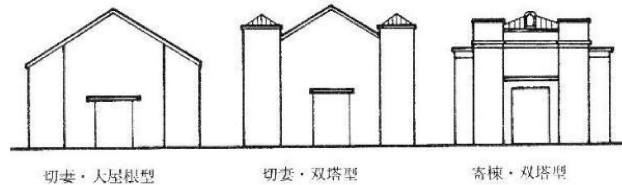


図 講堂の正面の意匠

出典『白線帽の青春』宇都宮新「旧制高校の校舎」

松山高校の講堂は「章光堂」とも呼ばれる。

講堂はとても凝った造りをしている。モダンで明るい。

旧制高校の講堂は、建築学的には3つの形に分類されるという。①切妻・大屋根型、②切妻・双塔型、③寄棟・双塔型の3つである。この順番で華麗な意匠になるという（宇都宮新「明治・大正のロマン—旧制高校の校舎」『白線帽の青春 東日本編』国書刊行会、1988）。松山高校の講堂は、③寄棟・双塔型の典型であり、華麗で、かなり建築費をかけている。旧制高校の③のタイプの講堂で現存しているものは松山高校だけだという。

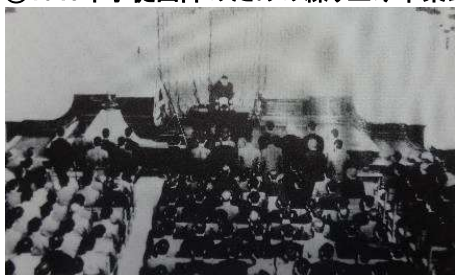
正面の車寄せの柱はトスカーナ式円柱を用いている。

松山高校の講堂は、現在でも保存されており、今でも式典などに使われている。これについては、後に4-1のところで詳しく述べる。

2-6. 講堂の内部

講堂の内部

①1943年学徒出陣のための繰り上げ卒業式



出典『白線帽の青春』

②1949年講堂で行われた愛媛大学開学式



出典 愛媛大学ホームページ

講堂は、式典などがおこなわれたので、内部の写真が残っている。

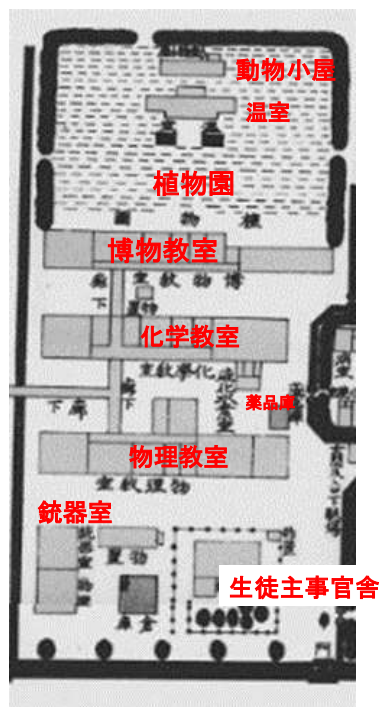
写真①は、1943 年、学徒出陣のための繰り上げ卒業式のシーンである。この写真をよく見ると、両側には、トスカーナ式の円柱が写っている。

写真②は、1949 年に、旧制松山高等学校は、新制愛媛大学文理学部へと移管されたが、その開学式の様子である。内部にも、トスカーナ式の白い柱が列をなしている。

2-7. 自然科学教室 キャンパスの南中央部

自然科学教室

キャンパス南中央部



出典「松山高等学校一覧」

博物教室での学習



出典『白線帽の青春』

本館の東側の自然科学教室のエリアを見てみよう。

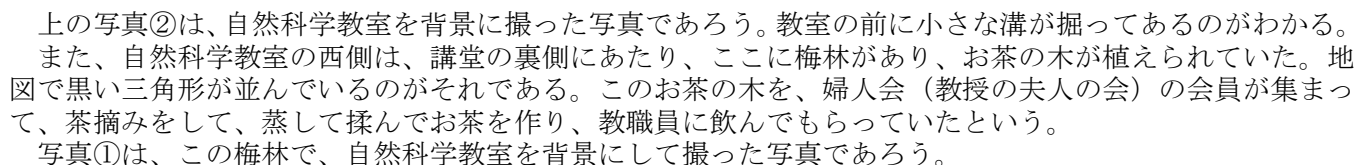
北から、博物教室、化学教室、物理教室の大きな建物が並んでいる。

博物教室の北側には、広い植物園があり、その中に、動物小屋と温室がある。また、化学教室には、薬品庫や硫化水素室が作られている。松山高校では自然科学の教育が重視されていたことがわかる。

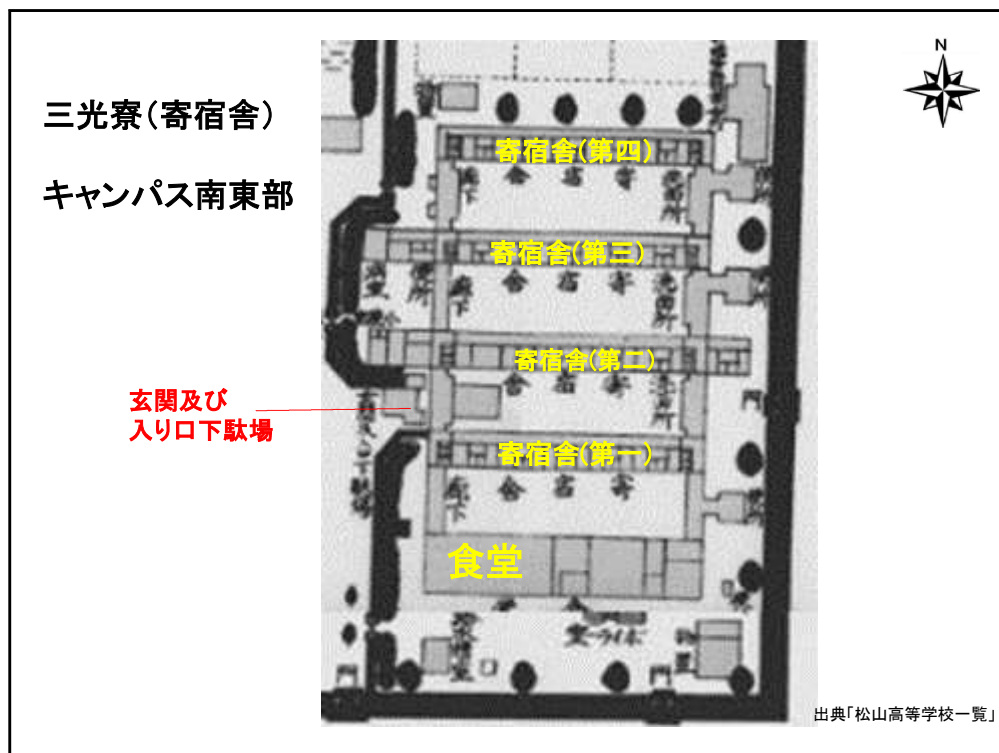
その南には、生徒主事官舎がある。これは生徒指導の教員は強い力を持っており、後述のように、その指導に反発してストライキがおこったほどである。

その東側に銃器室がある。当時の高校には軍事教練があり、それに使う武器が銃器庫に保管されていた。また、校舎には「射撃場」が作られている。これらは学生の軍事訓練のためである。キャンパス配置からも、当時の旧制高校の生活が想像できる。

自然科学教室の周辺

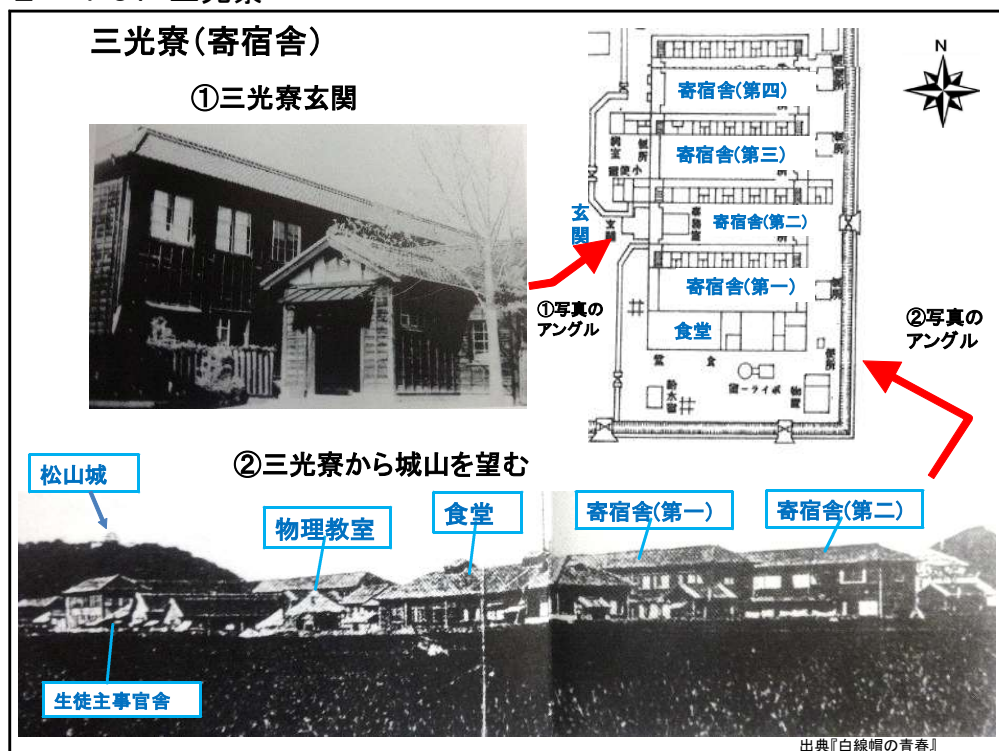


- 12 -



次に、キャンパス南東部の寄宿舎を見てみよう。
寄宿舎は「三光寮」と呼ばれた。三光とは真・善・美をあらわす。松山高校の校章はこの三光をあらわしたものである（後述）。
寮が完成したのは、開校の翌年（1920 年）のことだった。それまでは市内の大林寺に仮寄宿舎が設けられていた（後述）。
写真からわかるように、三光寮は、第一から第四まで、4つの木造2階の建物である。
4つの建物は、北から新寮、北寮、中寮、南寮と呼ばれていた。
一番南側の建物は食堂と浴室である。

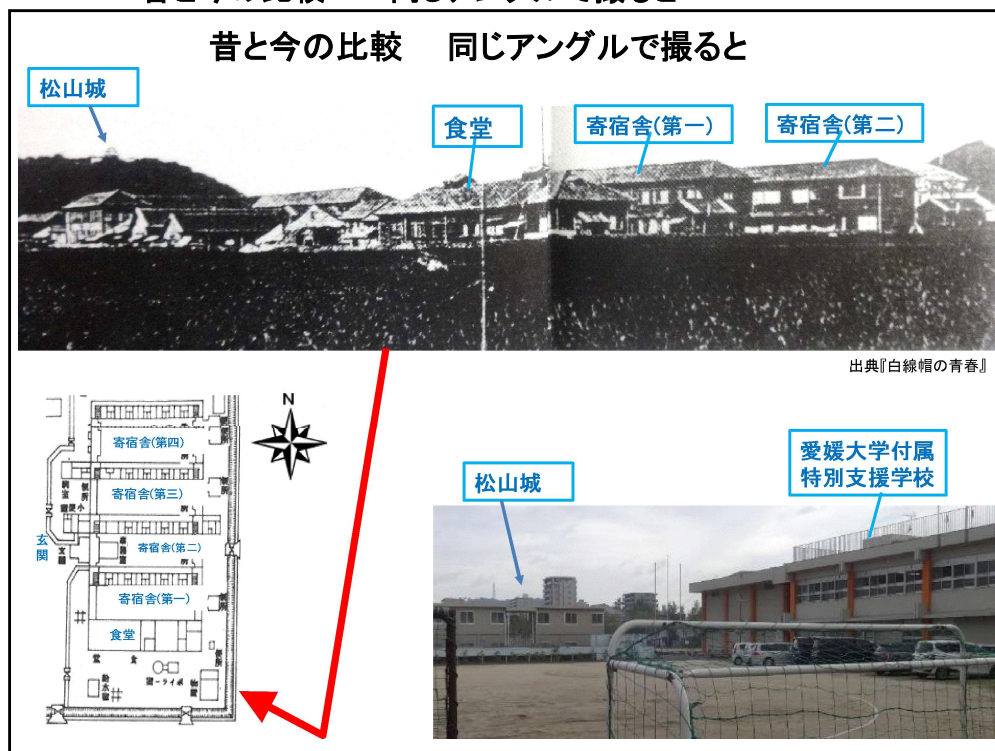
2-10. 三光寮



寮の玄関は西側にあった。写真①は玄関である。

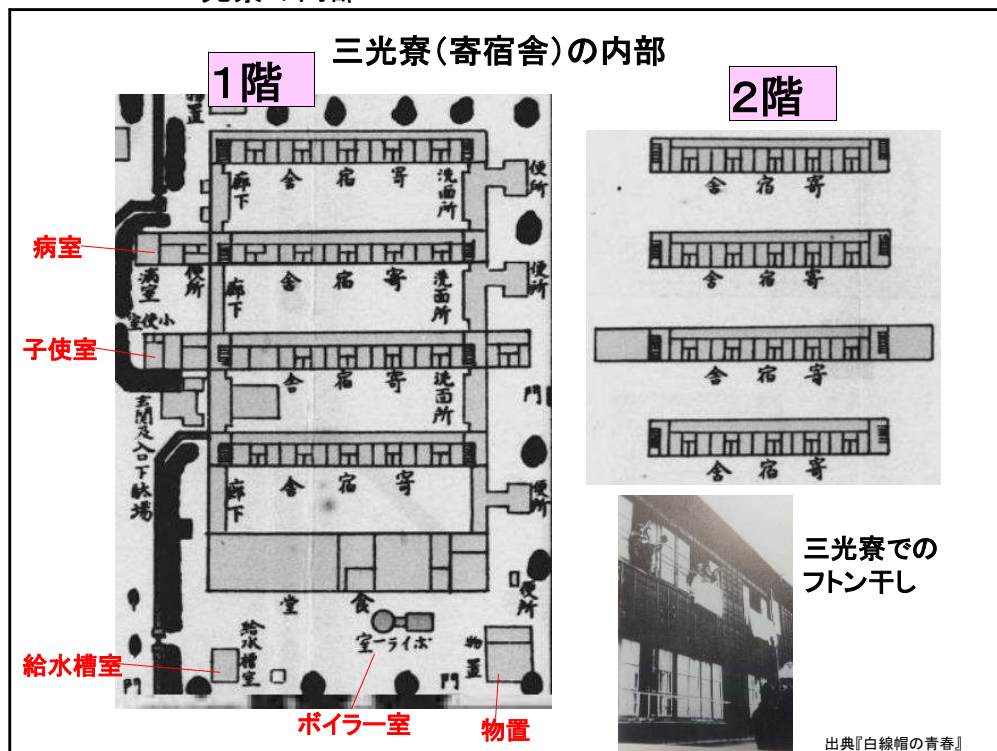
また、写真②は、東側から寮とキャンパスを撮ったものである。松山城が見えているので、方角が特定できる。食堂と第一第二の寄宿舎が写っている。また、物理教室と生徒主事官舎も見える。

2-1-1. 昔と今の比較 同じアングルで撮ると



三光寮が建っていた場所は、今は特別支援学校の校舎となっている。
松山城が見えているので、方角が特定できる。高いビルが建って見えにくくなっているが、かろうじて松山城が見える。

2-1-2. 三光寮の内部



各寮の各階には10室が並んでいる。したがって、全体では、4寮×2階×10室＝80室がある。
松山高校の学生数は約480名(40名×4クラス×3学年＝480名)であるから、1室には6名以上が入

っていたことになる。

各建物の1階の両側に便所がある。洗面所は各建物の東側にある。

玄関のとなりに小使室があり、第三寄宿舍の西側には「病室」がある。

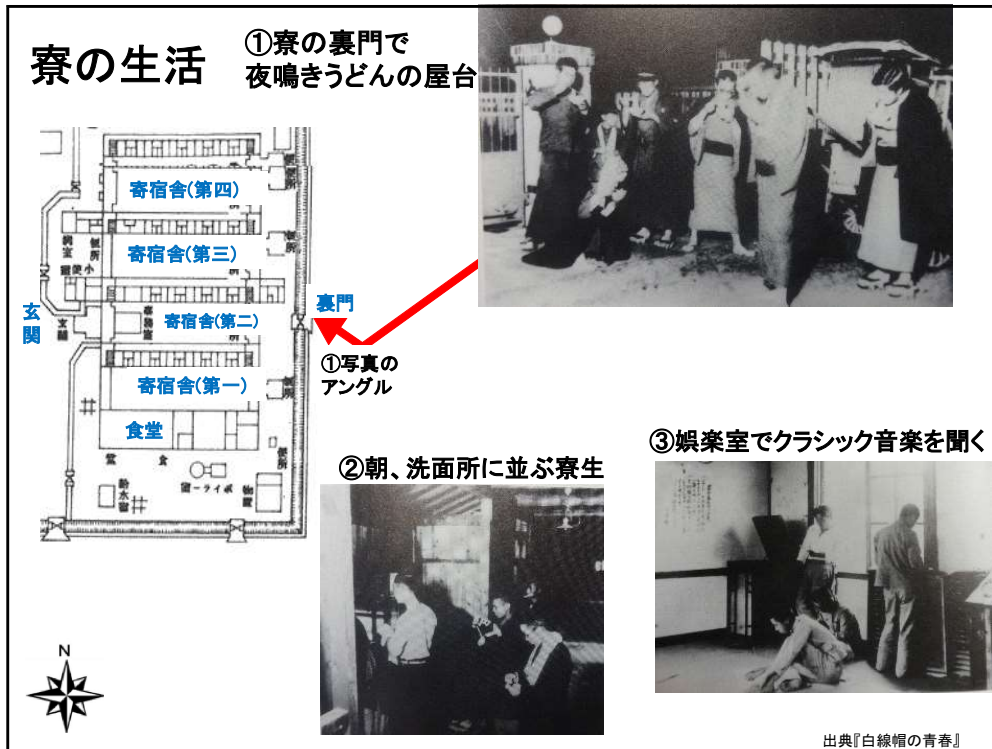
給水槽室とボイラー室がある。ボイラー室の北側がおそらく浴室であろう。

寮のフトン干しと寮雨

写真は、「フトン干し」をしているところである。この写真の解説には「この窓から、どれだけの寮雨が降りそそいだことだろう」と書かれている。「寮雨」とは、空から降ってくる自然の雨ではなく、横着な男子学生が窓から降らせる人工的な雨である。寮の1階の住人は決して窓を開けなかったという。

出典『白線帽の青春（西日本編）—写真図説・旧制高等学校』国書刊行会 1988

2-13. 寮の生活

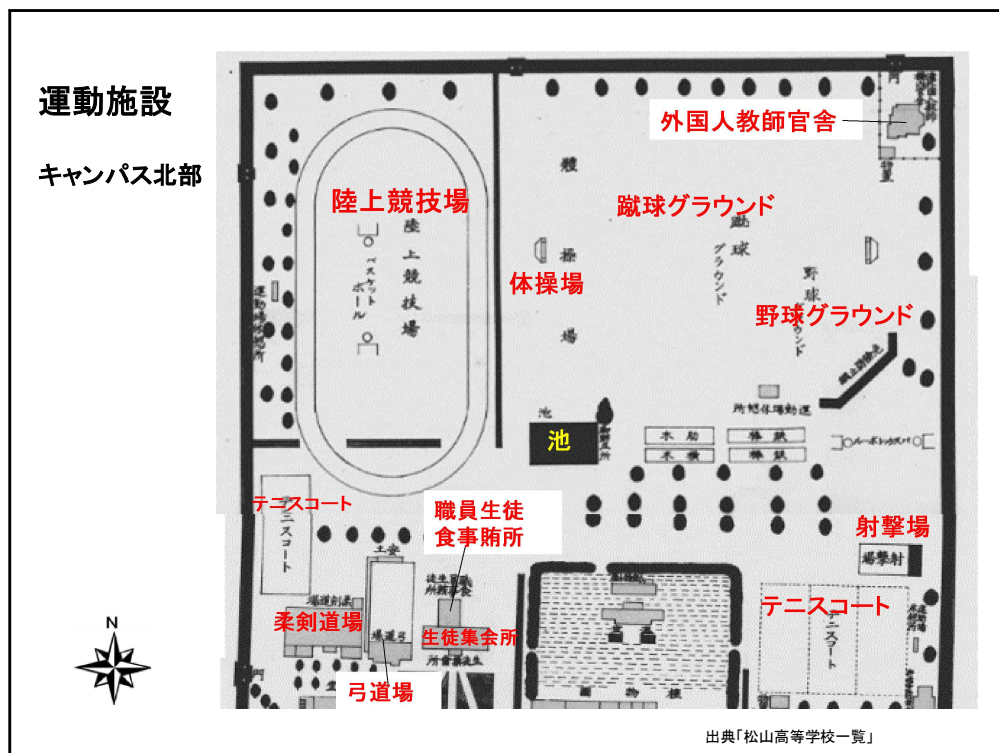


写真①は、寮の裏門にやってくる夜鳴きうどんの屋台で食べる松高生である。

写真②は、朝、洗面所に並ぶ寮生。

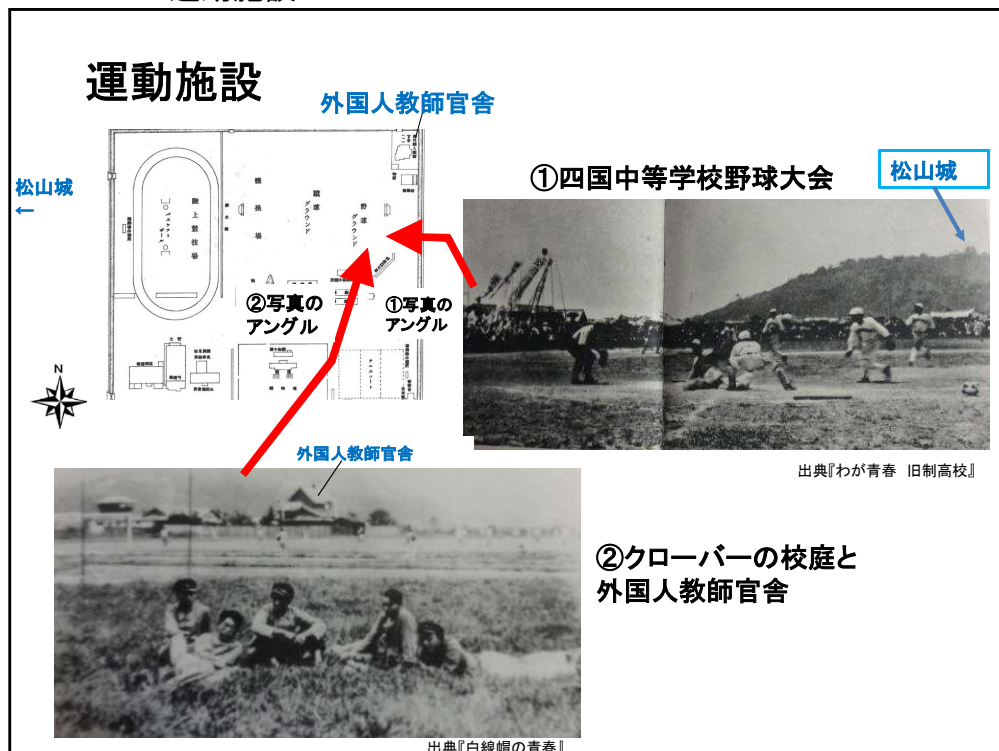
写真③は、娯楽室でクラシック音楽を聞く寮生である。ステレオセットが置かれている。

2-14. 運動施設 キャンパス北部



最後に、キャンパス北側の運動施設を見てみよう。
陸上競技場、体操場、蹴球グラウンド、野球グラウンドがある。体操場の南側には池がある。これは水泳プールとして利用されていたようだ。キャンパスの中央にはテニスコートがある。スポーツが重視されていたことがわかる。これは旧制高校全体の特徴である。
北東の角に外国人教師官舎がある。広い建物であり、外国人教師を優遇していたことがわかる。

2-15. 運動施設

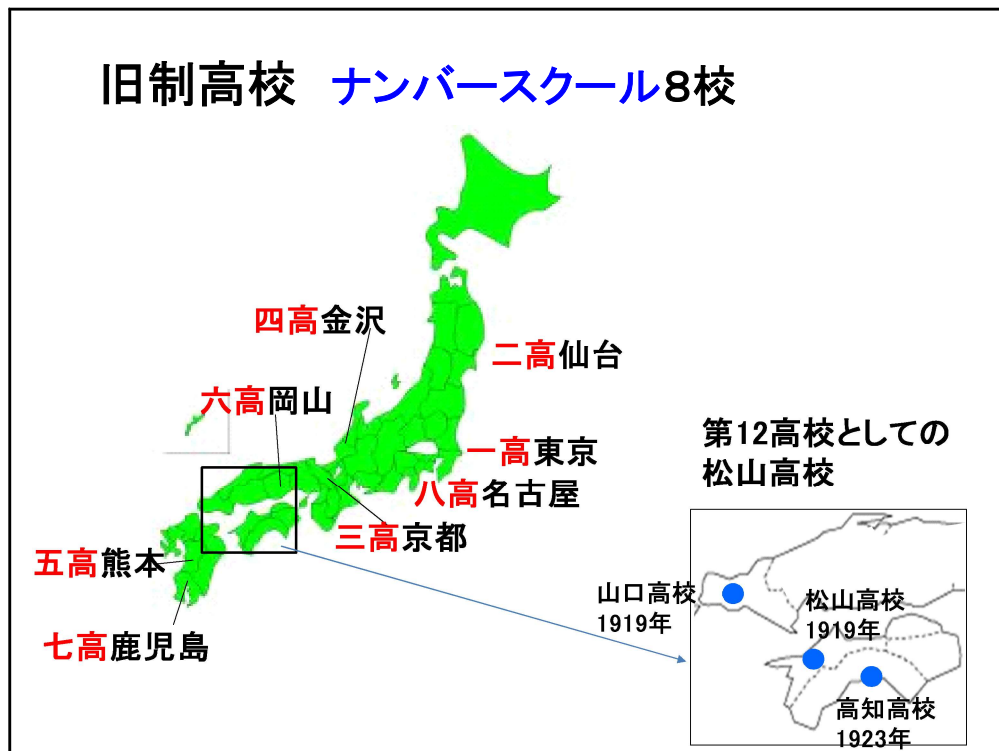


運動施設での写真はたくさん残っている。「ユーバーアッレス Über Alles」という校風（後述）だけあって、スポーツは盛んであり、柔道部などは強かったという。
写真①は、四国中等学校野球大会でのシーンである。ちょうどホームベースの後ろから撮ったものである。背景の松山城の位置から、写真のアングルが特定できる。

写真②は、「クローバーの校庭と外国人教師官舎」と題されている。校庭で5人の松高生が、寝ころびながらくつろいでいる。校庭はクローバーが植えられていた。後ろでは、野球をしている学生や、サッカーのゴールポストも見える。そのうしろに建つのが外国人教師官舎である。

3. 松山高校の歴史

3-1. 旧制高校ナンバースクール8校 第12高校としての松山高校



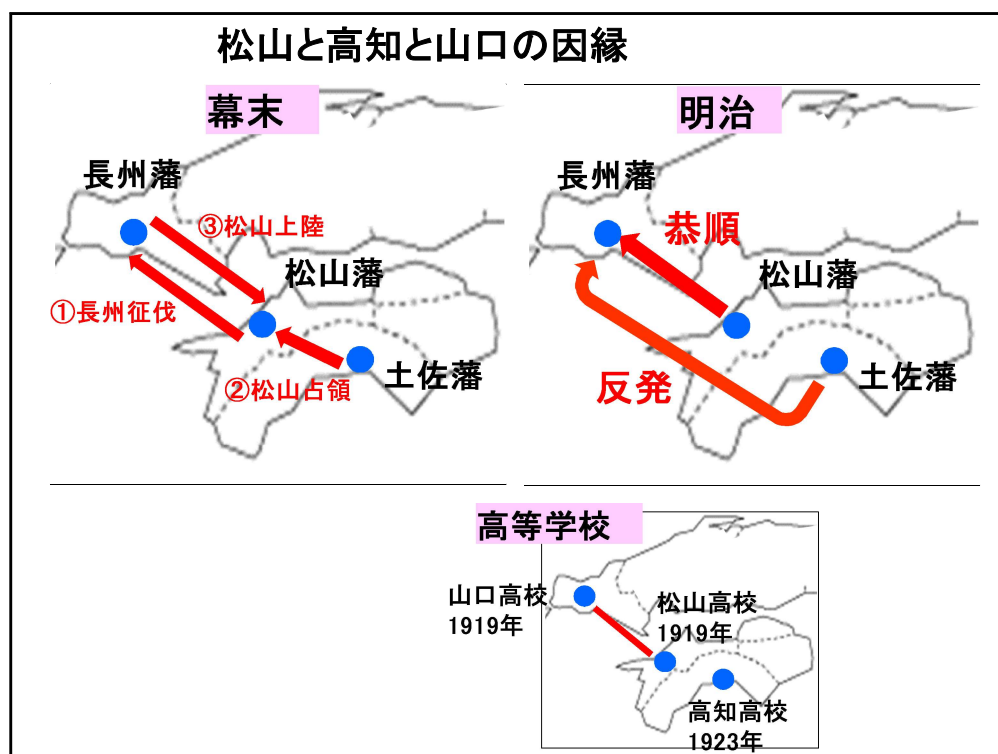
旧制高等学校は、1 高から 8 高まで、番号のついたナンバースクールとして作られた。

その後、1919（大正 8）年に初めて、地名をつけた高校が 4 校作られた。新潟、松本、山口、松山である。つまり、松山高校は第 12 高校だった。四国で初である。それに遅れること 4 年、1923（大正 12）年、四国で 2 番目の高知高校が作られた。

ここで出てくる山口と松山と高知には、歴史的な因縁がある。当時は、どの都市も高等学校を誘致しようと競っていた。

『資料集成 旧制高等学校全書 第 5 巻 設置・運営編』松山高等学校、旧制高等学校資料保存会編 昭和出版

3-2. 松山と高知と山口の歴史的因縁



松山と高知と山口には因縁がある。

幕末の恨み

①長州征伐

幕末の時代に、松山藩は幕府側についた。1866 年の長州征伐では、先頭に立って長州を責めたが、こてんぱんにやっつけられた。松山藩は保守・守旧の伝統があり、近代的な軍備に鈍感であった。これに対して、長州の奇兵隊は、最新の銃を持ち、最新の洋式訓練を受けていた。負けて当然である。戊辰戦争でも松山藩は幕府側について負けた。松山と長州は互いに恨み合った。

②土佐藩による松山占領

戊辰戦争では、薩摩藩（鹿児島）・長州藩（山口）・土佐藩（高知）の新政府軍が勝ったので、負けた松山藩は天皇の敵（朝敵）とみなされてしまった。そこへ新政府の土佐藩がやってきて、松山を占領した。藩主は蟄居を命じられ、おまけに 15 万両の罰金を払えと命令されたのである。松山藩は、新政府軍に恭順を示し、何とか工面して 15 万両を支払ったが、その財政的な疲弊は激しかった。

③長州による松山上陸

また、維新後は、長州が松山藩に仕返しをしようと海からやってきて、三津浜に上陸した。松山藩は高価な汽船を差し出して、何とか許してもらった。

このように、土佐と長州からの屈辱に対して、松山は恨みがあるはずである。

明治の変化

①長州に対する土佐の反発

明治の時代になると、政府の要職を薩摩藩と長州藩が独占したので、薩長に対する反発がおり、自由民権運動がおこった。土佐藩は、新政府軍として戦ったはずなのに、薩長から取り残されてしまった。土佐という場所は、江戸時代から藩校もさかんで、学問が栄え、幕末には多くの人材が出た（吉田東洋、武市瑞山、後藤象二郎、坂本龍馬、中岡慎太郎、岩崎弥太郎・・・）。土佐藩は、薩摩・長州とならぶ維新の三大雄藩を自負していた。ところが、明治政府では土佐藩は取り残されてしまった。土佐で板垣退助らの自由民権運動は、もともとは新政府内の派閥抗争による薩長への恨みからであった。

実際、高等学校の設立についても、高知高校が作られたのは 1923（大正 12）年のことであり、官立高校 25 校のうち 23 番目であった。薩長とならぶ三大雄藩としてはいかにも遅いものであった。

②長州に対する松山の恭順

これに対して、松山は、新政府軍に対して恭順を示し、長州に逆らわなかった。幕府の味方というカラーを次々と消していき、朝臣として在京・勤番や天皇即位について献物・献金などして朝廷に尽くした。こうして松山藩はしだいに新政府の藩屏となっていく。うまく立ち回ったのである。こうした事情もあってか、四国に最初に高等学校が作られたのは、高知ではなくて、松山だった。

参考 『松山県の歴史』 山川出版社

『坂の上の雲』 司馬遼太郎

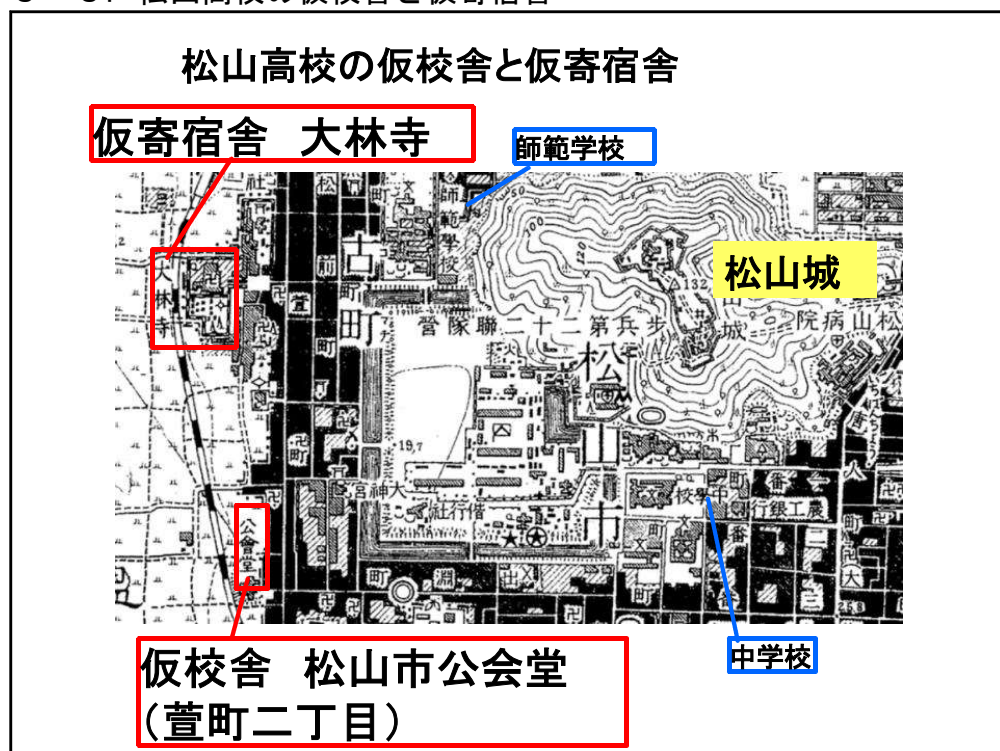
高等学校の設立の順番

松山高校と同期なのは山口高校（長州）であって、高知高校（土佐）ではない。松山高校のライバルは山口高校であって、野球などのスポーツでも松山高と山口高は、毎年交互に場所をかえて試合をおこなった。地図を見てもわかるように、松山と山口は、瀬戸内海をはさんで対岸にあり、船を使えばすぐ渡れる所なのである。松山と高知は同じ四国とはいえ、高い四国山脈をはさんでいるので、交通の便は悪い。松山高は高知高は相手にしなかった。松山としては、幕末に土佐藩に占領された恨みを晴らした思いだっただろう。

とはいえ、司馬遼太郎も『坂の上の雲』でいうように、松山の人たちは、あまり恨みを根にもつような人柄ではないようだ。「伊予松山というのは領内の地味が肥え、物成りがよく、気候は温暖で、しかも郊外には道後の温泉があり、すべてが駑蕩としているから、自然、人に戦闘心がない。この藩は、長州征伐でも負けた。負けてくやしがるよりも、諂がはやった」「伊予ことばというのは日本で最も悠長なことばであるとされている」

夏目漱石も『坊ちゃん』の中で、「～ぞなもし」という方言を使って、学生のいたづらを無害化している。

3-3. 松山高校の仮校舎と仮寄宿舎



松山高校の設立は、1919（大正8）年4月に正式に決まった。校長1人、教授16人、書記3人と定められた。校長は、京都の第三高等学校の教授であった由比質（ゆひ ただす）が任命された。

仮事務所が、松山市萱町二丁目にあった松山市公会堂に設置された。

第1回目の入学試験がおこなわれた。定員160人（文科80・理科80）に対して、志願者は986人となり、競争率6.2倍の狭き門となった。

1919（大正8）年7月31日に入学者が決定した。入学者の出身は、愛媛53人、広島・大阪各12人、兵庫・徳島・岡山・大分各8人、香川・和歌山各6人であった。瀬戸内海周辺から入学者が集まったわけである。

仮寄宿舎は大林寺という寺に決まり、9月10日から入寮を開始した。

仮事務所のあった松山市公会堂は、仮校舎にもなった。9月11日には、仮校舎で入学式がおこなわれた。翌12日から授業を開始した。翌10月26日から29日まで、別子銅山や今治への修学旅行がおこなわれた。

仮校舎と仮寄宿舎の場所

上の古地図に示すように、萱町は城の西側（城西地区）にある。地図には「公会堂」も出ている。現在でいうと、JR松山駅の東南すぐのところのようである。公会堂の写真を探したが、見つからなかった。

松山市公会堂は、1891年に建てられたもので、築30年の古い建物であった。公会堂は2階建てであり、1階を講堂として使った。2階は、4つに区切って、4教室として使用した。

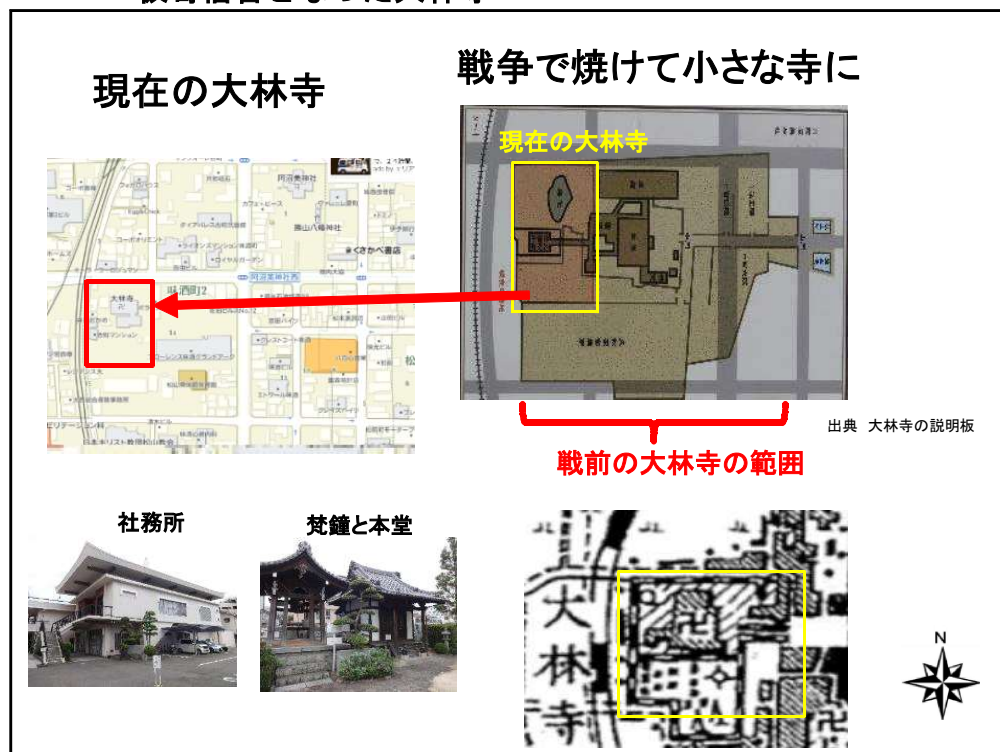
地図に示すように、仮寄宿舎も、城の西側（城西地区）にある。

出典 『資料集成 旧制高等学校全書 第1巻 総説編』松山高等学校の沿革、旧制高等学校資料保存会編 昭和出版

松山中学校と松山師範学校

ちなみに、地図を見ていると、近くには「中学校」がある。これは松山中学校である。20 年以上も前のこと、1895 年（明治 28 年）に、夏目漱石はこの松山中学校に赴任した。『坊ちゃん』はここを舞台とする（現在、ここには「漱石ゆかりの松山中学校跡」の碑がたっている）。また、近くに「師範学校」があるのも見てとれる。この松山師範学校は、『坊ちゃん』にも登場し、当時中学校と師範学校は仲が悪いと書かれている。主人公が中学校を去るのは、中学校と師範学校の生徒のケンカを止めに入って警察に捕まったことがきっかけとなっている。軍の営舎をはさんで、中学校と師範学校は対立関係にあった。一般にどこでもそうした中師の対立はあったようである。

3－4. 仮寄宿舎となった大林寺



仮寄宿舎は大林寺に置かれた。

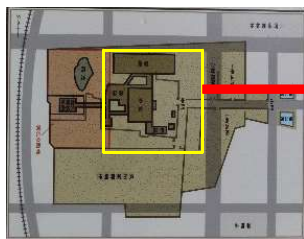
その大林寺を尋ねてみた。路面電車の古町駅から歩いて5分ほどのところにある。小さな寺である。新しい社務所があり、後ろに梵鐘と本堂がある。とてもこの場所が学生 160 人の寄宿舎になったとは信じられない。

境内をよくみると、このお寺の歴史の説明板があって、納得した。昔の大林寺はかなり大きな寺であった。一時は、愛媛県庁の仮庁舎になったこともある（1877～78 年まで仮庁舎となり、1878 年に現在も残る立派な県庁が完成して移転した）。さらにはロシア兵捕虜の収容所、陸軍病院、予科練の宿舎などとしても使われた。巨大な建物だったのである。ところが、1945 年のアメリカ軍の大空襲で全焼してしまった。その後、敷地は小さくなってしまった。現在の本堂や庫裡は、1966（昭和 41）年に建て替えられたものである。説明板には地図も出ている。戦前的大林寺と、現在の大林寺が比較できる。当時は、今の 5 倍ほどの広さがあった。

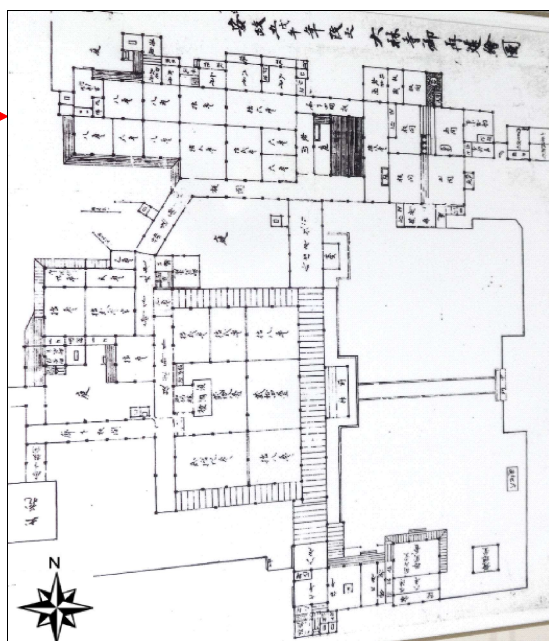
古地図で調べてみても、大林寺は相当大きな敷地であったことがわかる。

3－5. 大林寺の戦前の大きな建物

大林寺の戦前の大きな建物



出典 大林寺の説明板



大林寺の説明板には、本堂らしき写真も出ていたが、かなり大きな寺舎である。現在のものとは比べものにならない。

戦前の建物の平面図も示されていた。これを見るとわかるように、北側に宿坊があり、大きな部屋が 15 室はある。南側に本堂があり、大きな部屋が 12 室はある。松山高校生 160 人を収容した仮寄宿舍となったことは納得できる。

3-6. 大林寺はロシア兵捕虜の収容所としても使われた

大林寺はロシア兵捕虜の収容所としても使われた ロシア兵くつろぐ庭園



出典 大林寺の説明板

ロシア兵墓地



ひとりひとりロシア語とカタカナで
名前と死亡年月日が彫ってある

大林寺の説明板で驚いたのは、「ロシア兵くつろぐ庭園 明治 37 (1904) 年頃」という写真であった。15 人が大林寺の庭園でくつろいでいるが、ロシア兵の捕虜という。中の一人は、髪型からみて、日本人女性ではないかと思われる。

日露戦争でのロシア兵の捕虜が松山で収容されたのは有名である。日本が文明国であることを世界にアピ

ールしたかった日本政府は、松山での捕虜の生活が「ハーグ条約」にもとづいていることを世界に宣伝した。そのため、ロシア兵の間でも松山は有名になり、投降する際に「マツヤマ！」と叫ぶようになったという。司馬遼太郎も『坂の上の雲』で次のように書いている。

この当時の日本政府は日本が未開国ではないことを世界に知ってもらいたいという外交上の理由もあって、戦時捕虜のとりあつかいについては国際法の優等生であった。ロシア捕虜をとびきり優しくとりあつかったというよりむしろ優遇した。

その収容所は各地にあったが、松山がもっとも有名であり、戦線にいるロシア兵にもよく知られていて、かれらは投降するということばをマツヤマというまでになり、「マツヤマ、マツヤマ」と連呼して日本軍陣地へ走ってきたりした。

げんに好古の故郷の松山の旧城下町は、町ぜんたいが捕虜のための遊歩場ようになっており、町のひとびともかれらに親切で、捕虜侮辱といったような事件は一件もおこっていなかった。

1904（明治 34）年、松山俘虜収容所が設置された。松山高校の仮校舎と仮寄宿舍が置かれた松山公会堂と大林寺も収容地に指定された。ほかに、城北練兵場（御幸村）、山越の寺院、勧善社なども指定された。1909（明治 39）年 2 月 16 日に捕虜はロシアに送還されたが、閉鎖までに捕虜約 6000 人が収容されたという。

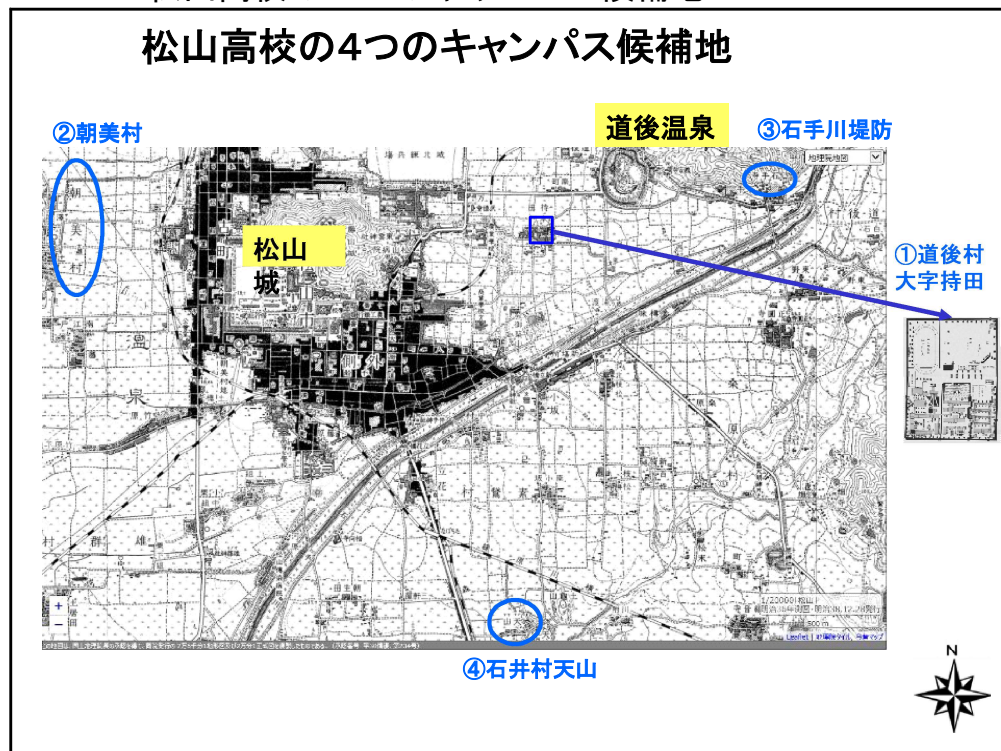
さらに、第一次世界大戦の 1917 年～1920 年までは、ドイツ兵の捕虜も松山に収容された。ドイツ兵捕虜収容所としては、徳島の板東収容所が有名である（日本で初めてベートーベンの第 9 が演奏された場所として有名で、現在観光地となっている）が、四国や九州のあちこちに捕虜収容所が設けられ、この松山にも収容された。

つまり、1919 年に大林寺が松山高校の仮寄宿舍となった頃には、ロシア兵はいなかったが、ドイツ兵捕虜がいた可能性もある。

ロシア兵墓地を尋ねる

松山市の北側に「ロシア兵墓地」がある。松山大学御幸キャンパスをたずねた折に見学した。松山大学御幸キャンパスの隣に来迎寺がある。中に入ると、案内板があり、斜面をかなり登っていくと、ロシア兵の墓地がある。ロシア兵捕虜 98 名が眠っている。ひとりひとりの墓碑に、ロシア語とカタカナで名前と死亡した年月日が彫ってある。ひとりひとりに花が手向けられている。

3-7. 松山高校の 4 つのキャンパス候補地



仮校舎の松山公会堂を使ったのは、1919 年 9 月から 1910 年 8 月までの 1 年間しかなかった。すぐに本校舎が完成して移転したからである。

実は、開校の 2 年前の 1917（大正 6）年に、四国に高等学校を設立するために、四国四県の知事が陳情した。その結果、松山市が高松市を破って設置が決まった。松山市では、高等学校設置協賛会が組織され、

寄付金 40 万円を集めた。

敷地については、松山市は以下の 4 つの候補地を文部省に申請した。①道後村大字持田、②朝美村（萱町裏）、③石手川堤防の県有地、④石井村天山である。地図からわかるように、候補地は松山市の四方に散らばっている。他にもいろいろな地が候補として上がり、自分たちの地に持つてこようと我田引水の議論が持ち上がったと、当時の新聞は報じている。

市としては②朝美村を希望していたのだが、文部省は①持田を最良の地とした。

これにより地主との交渉が始まり、敷地 19,833 坪が購入された。そして、1920（大正 9）年 8 月、持田地区に新校舎が完成した。

『資料集成 旧制高等学校全書 第 5 巻 設置・運営編』松山高等学校、旧制高等学校資料保存会編 昭和出版

新校舎での授業開始

松山高校は、2 年目の 1920（大正 9）年 9 月に持田地区に移転した。9 月 1 日に、始業式と第 2 回入学式（新学年）がおこなわれた。その後、講堂・生徒集会所なども落成して、持田地区に官立学校としての威容を誇るようになった。

11 月には新築の校舎で、開校記念祭が 1 週間にわたって盛大に催された。クラスごとの飾り付けや演劇が催され、大勢の松山市民がやってきた。夜は、祝賀のちょうちん行列が行われた。

出典『資料集成 旧制高等学校全書 第 1 巻 総説編』松山高等学校の沿革、旧制高等学校資料保存会編 昭和出版

3-8. 由比質校長

初代校長 由比 質

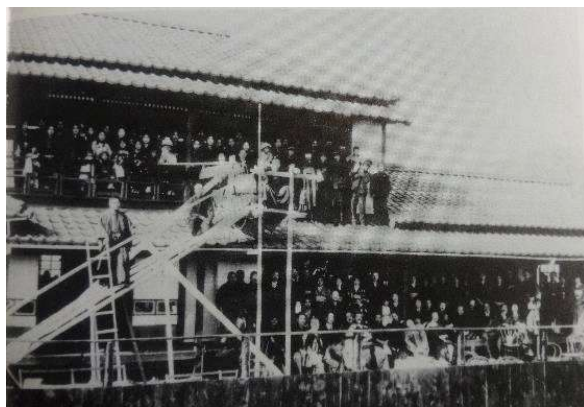


出典『白線帽の青春』

校章は三光(真善美)をあらわす



由比校長の新居は寄宿寮



出典『白線帽の青春』

初代の校長には、京都の第三高等学校の教授であった由比質（ゆひ ただす）が任命された。

由比 質（1871 ～ 1930 年）は、高知県土佐郡の出身で、第三高等学校、東京帝国大学文科大学史学科を卒業した。第五高（熊本）、第三高（京都）の教授をへて、松山高校の校長となったのは 48 歳のときであった。新天地に理想の高等学校を作ろうと、校風作りに全力を尽くしたという。

左下に示す松山高校の校章は、三光章と呼ばれる。三光とは「真・善・美」を象徴している。その 3 つを背景として、中央に、桜の花と「高」の字を配している。

由比校長が主導した校風

由比の作った校風は、「厳格なる自由」「大家族主義」「男性的人格」「ユーバーアッレス Über Alles」などとして学生たちに伝わっていった。

1919（大正 8）年 9 月 11 日に、仮校舎で入学式が開かれ、由比校長は「厳格な自由」の演説をした。

「諸君は・・・万事束縛なく自由に事に処することができるが、自分の行動に対しては責任を飽くまで持た

なければならない」。

日本史における瀬戸内海は、西洋史における地中海に匹敵する

最初の入学者は、前述のように、瀬戸内海周辺から集まった。これを反映してだろうが、由比校長は、「校友に告ぐ」として以下のように書いて、学生の奮起を促した。

明治維新の偉業の原動力は四国の地に生まれた。また、瀬戸内海の国史における役割は、あたかも西洋史における地中海の役割に匹敵する。瀬戸内海が文化・産業・海軍の大勢を決定したといってもよい。

引用 由比質 校友会雑誌第一号（大正8年）

『資料集成 旧制高等学校全書 第4巻 校風編』旧制高等学校資料保存会編 昭和出版

初代の豪傑教授陣

新しい高等学校に集められた教員たちも曲者ばかりだったようだ。

由比質は教授陣をそろえるためだいぶ苦労したらしい。いっぽう変わった人物が集められた。英語の名須川良、ドイツ語の三並良、法政経済の北川淳一郎ら反骨精神の旺盛な連中が、校風づくりに力を貸した。

名須川は旧制三高時代、明治の文豪高山樗牛と机を並べ、東大卒業後、夏目漱石の後任として五高へ赴任し、松山に回ってきた。三並は一高教授時代、頑固一徹で点数が辛く、天下の秀才たちをふるえ上がらせた。北川は高文の行政科試験に合格し、一度は内務省に就職したが、腰にサーベルを帯びるのがいやで役人をやめたという人物。

「松高の豪放な校風は、由比校長をはじめとする豪傑教授と「ご先祖さま」（1回生から3回生までの大正時代の卒業生のこと）がつくりあげたんだと、われわれは自負している」

引用 『青春風土記 旧制高校物語1』週刊朝日編 朝日新聞社 1978

ある学生は次のように回想する。

由比先生がお集めになりました先生方は、各高等学校その他でも余し者ばかり（笑）——学問は非常にできるが、角があって折合いが悪いこういう先生ばかりお集めになりまして、そのため非常に先生方は豪放磊落で、一風変わった気骨りょうりょうたる先生ばかりで、夜になるとぐろを巻いて酒を飲んでおられますし、われわれもその中へいって「おい、お前も飲め」というから飲んでいような、非常に自由な学校であったと思っています。

そこでよく学校をさぼって道後温泉なんかに行っていると、由比先生に湯船の中で会っちゃうわけです（笑）。どうも具合が悪いのですが（笑）。「なぜ学校を休んだ」とかそういうことはおっしゃらない非常にスケールの大きい先生でありました。

この学生は結局落第することになるが、その時も

その晩、明治楼だったと思いますが、そこへ今村先生が、ぼくをよんでくれて「まことに相済まんが、もう1年やってくれ。」それでそのとき今村先生が芸者を呼んでくれて慰められた。私にとって芸者をはべらした宴会は、それ生涯の最初なんであります（笑）。

引用 那波光正「完全に自由な校風」 由比校長三十年記念追悼会記録（昭和35年）

『資料集成 旧制高等学校全書 第4巻 校風編』旧制高等学校資料保存会編 昭和出版

新居は寄宿舍 寝耳に水の転任

松高を愛した由比校長は、松山永住を決意し、借金をして新居を建てた。この家は、学生の寄宿舍としても使えるような間取りで、大家族主義を象徴するものと言われた。落成の祝賀会には200名が集まった。右下の写真はその時のものである。ところが、その日に、寝耳に水の知らせが届き、第七高等学校（鹿児島）への転任の内命を受けたという。由比は、7年住んだ松山を後にして、1926年4月に鹿児島へ転任した。

第七高等学校の校長（造士館館長）となった由比は、その4年後の1930年、鹿児島で講演中に脳溢血で倒れて急逝した。享年59。

ストライキ

第2代校長となった橋本捨次郎は、当時の文部省の意向を反映して、学則を改訂し、違反者に対しては厳罰主義で臨んだ。これに対して学生は不満を募らせ、1926年11月にストライキに入った。学生の熱情は、地元の市民や先輩団に支持されて、文部省への強い抗議となって激化した。愛媛県知事などの調停によって解決し、厳罰主義の強行は阻止された。翌1927年には、橋本校長は退任し、金子教頭が第3代校長に就任することになった。この事件の時に、松山高校のクラス委員をしていたのが、後に日本共産党書記長をつとめる宮本顕治であった。

大きなストライキは昭和になってからも起こった。生徒主事の行元方円の教育方針に反対する学生たちが立ち上がったものである。この時は、東大や京大などから在学中の先輩たちが松山に乗り込んできた。宮本顕治もそのひとりである。ストライキは10日間ほど続いたが、結局、学生たちが折れて、処分者を出した。

松山高等学校の歴代校長

	氏名	在任	期間	校長退職後
1	由比 質	1919 年 4 月～1925 年 4 月	7 年	第七高等学校（鹿児島）校長
2	橋本捨次郎	1925 年 4 月～1927 年 8 月	2 年	
3	金子幹太	1927 年 8 月～1935 年 8 月	8 年	
4	西澤富則	1935 年 8 月～1941 年 4 月	6 年	
5	菊池清治	1941 年 4 月～1945 年 11 月	4 年	八幡浜市長
6	山本与吉	1945 年 11 月～1949 年 5 月	4 年	
7	井手淳二郎	1949 年 5 月～1950 年 3 月	1 年	新制 愛媛大学 文理学部長

(Wikipedia を参照して作成)

3-9. ダウンタウンヒーローズ

松山高校が舞台 「ダウンタウンヒーローズ」 早坂暁



山田洋次監督が映画化



松山高校を舞台にした小説に『ダウンタウン・ヒーローズ』がある。脚本家の早坂暁が1986年に発表した自伝的小説で、直木賞の候補にもなった。1948（昭和23）年の最後の旧制高校生である主人公と、道後温泉の遊廓の娼婦との交流も描かれる。

早坂暁（1929～2017年）は、松山の生まれで、旧制松山中学校を出て、海軍兵学校在学中に終戦を迎えた。被爆直後の広島を目撃した。松山高等学校に入り直した。松高時代について、早坂は次のように書いている。これを読むと、旧制高校を体験した者が異口同音にそれを褒める理由がわかる。

16歳から19歳の、全細胞が最も輝いている三年間に、"おのれは一体何者か"を考えさせてくれた。あの三年間でもらったものは、多分、その後の四十年に匹敵するのだ。

理科生の私は、『善の研究』や『三太郎の日記』を読んだ。さらにすすめられてケルケゴールや、ニーチェも読んだ。どれほど理解したかは別にして、理科生も"哲学した"のである。

そして、結局私は自分が医者には向かない人間であることを悟った。あの三年間がなかったら、ずっとずっと後になってからでないと、おのれの発見がなかったと思うのだ。

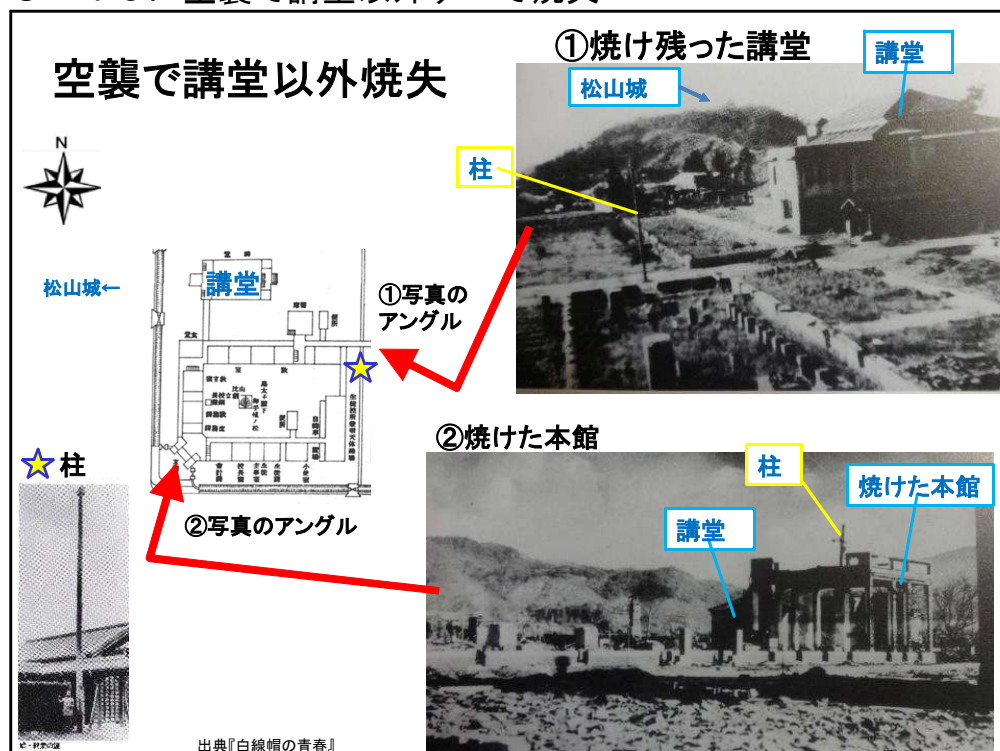
たった1本の道をへだてただけなのに、松山高校と松山中とは月とすっぽんほど違った。朴歯の下駄や、二本白線の帽子、長いマント。そして煙草を喫えたり、歩いて十分そこそこの道後温泉の遊郭へ出向いて、はじめて女を知ったが、それは松高へ入らなくても体験できることである。

出典『白線帽の青春（西日本編）一写真図説・旧制高等学校』国書刊行会 1988

早坂は、松高を卒業した後、東京大学医学部に合格したが、入学しなかった。かわりに日本大学芸術学部演劇学科に進学し、放送作家としての道を辿る。

早坂の小説を原作として、1988 年には、山田洋次監督が映画化した。こちらは、原作から少し離れて、青春小説のようなストーリーになっている。

3-10. 空襲で講堂以外すべて焼失



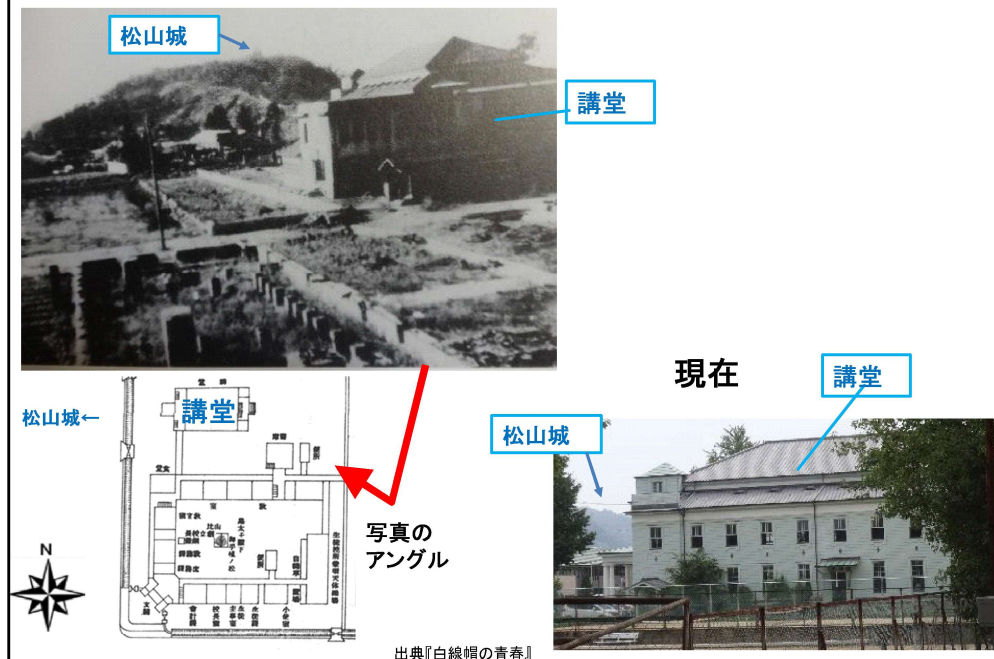
1945 年 7 月に松山市はアメリカ軍の空襲を受けて、市街地はほぼ全焼した。松山高等学校のキャンパスもほとんど焼けた。しかし、奇跡的に講堂だけが焼けなかった。それが写真①である。背景に松山城が写っているの、方角が特定できる。

写真②は、焼け落ちた本館の骨組みであろう。本館は土台や鉄骨を残すだけとなっている。その背後に、講堂は残っており、屋根が見える。

写真①と②で共通して、高い柱が焼け残っているのが見える。地図でいうと、おそらく★印のあたりに立っていたと思われる。この柱は、始業・終業を告げる鐘の柱（左の写真）ではないかと推測される。

3-11. 焼け残った講堂 昔と今の比較 同じアングルで撮ると

焼け残った講堂 昔と今の比較 同じアングルで撮ると



左上の写真は、前と同じく、焼け残った講堂である。

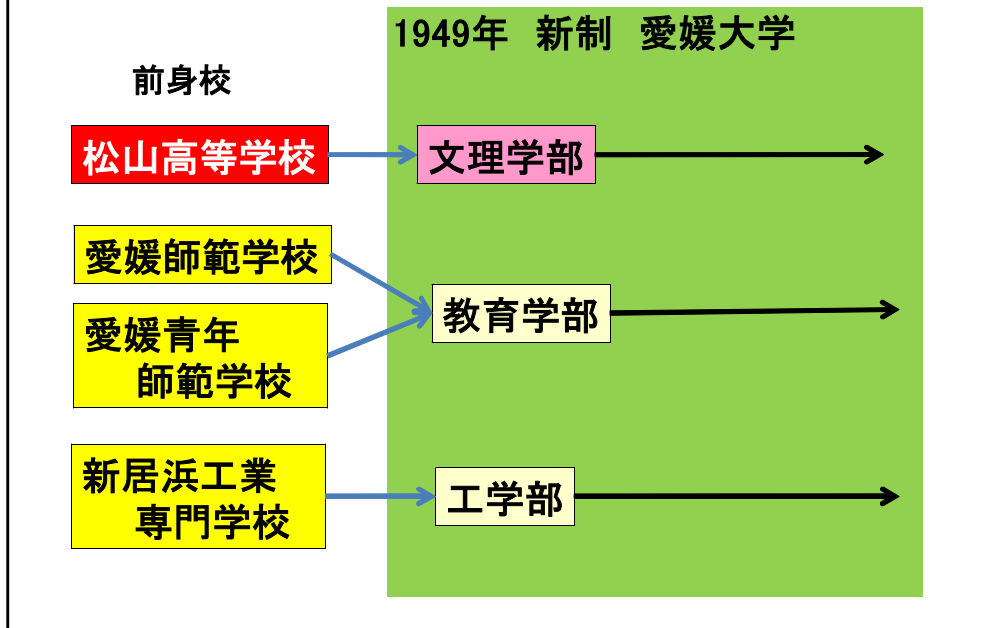
現在、これと同じカメラアングルで撮ったものが右下である。松山城と講堂の位置関係からみると、このようになる。

授業再開

終戦により学生たちは学校に戻ってきたが、焼け残った講堂や武道場、学外施設（石手寺など）で授業を再開した。また、石手寺などの学外施設も利用した。前述のように、石手寺は、松山高等学校のキャンパスの候補地のひとつであった。ちなみに、石手寺は、四国八十八カ所巡りの第 51 番札所であり、ミシュランガイドにも取り上げられた松山の観光スポットである。

3-12. 愛媛大学に吸収された松山高校

愛媛大学に吸収された松山高校



戦後になって、旧制高校は新制大学に吸収されることが決まった。1949年には新制大学が発足した（はじめは、四国4県が共同で「四国総合大学」をつくる構想もあったが、結局は各県に1大学を作ることになった）。

1949年には愛媛大学が発足した。図に示すように、松山高校は「文理学部」として愛媛大学に吸収された。また、松山師範学校と松山青年師範学校が「教育学部」として、また新居浜工業専門学校が「工学部」として吸収された。

松山高校は愛媛大学文理学部へ

松山高等学校は、新たに松山大学「文理学部」として出発した。松山高校の教官は、そのまま愛媛大学文理学部の教官となった。文理学部は一般教育を担当した。第8代松山高校校長の井手淳二郎がそのまま初代文理学部長となった。残っていた学生がすべて卒業した1950年3月に、松山高等学校は閉校となった。

持田キャンパスは文理学部のキャンパスとして継承された。その後、1963年には、文理学部は城北キャンパスに移動したため、持田キャンパスは愛媛大学教育学部附属学校の校地となり、現在に至っている。

3-13. 旧制高校は「消滅」したのではない

旧制高校は「消滅」したのではない

高等教育	3 大学	2 大学専門
	3 高校	2 大学教養
中等教育	5 中学	3 高校
		3 中学
初等教育	6 小学校	6 小学校

戦前旧制 戦後新制

よく「旧制高校は消滅」したと言われるが、そうではない。このことは強調しておきたい。旧制高校は新制大学の教養部（一般教育）として受け継がれて生きたのである。松山高校は、松山大学の文理学部として生き延びた。松山高校の教員は、ほとんどそのまま松山大学文理学部の教員となった。文理学部の教育や一般教育は、学問分野としてはほとんど変わっていない。

ただし、大きく変わったこともある。大学の理念は、戦前にはヨーロッパ型の専門家養成であったのに対し、戦後の新制大学では、アメリカ型の「市民を養成するための大学」へと変わった。旧制度では閉め出されていた女子が進学できるようになった。そして、教養部（一般教育）の内容も、戦前の旧制高校のようなヨーロッパ型の予備教育（専門基礎教育）から、戦後の新制大学では、アメリカ型の「リベラルアーツ」（教養教育）へと変わった。また、全寮制度もなくなった。このような変化はあったものの、旧制高校は「消滅」したのではなくて、「生き延びた」のである。これについては次の文献を参照いただきたい。

出典 丹野義彦：「アンケートー基礎演習を自己検証する」．小林康夫・船曳建夫編『知の技法ー東京大学教養学部「基礎演習」テキスト』pp.44-61, 1994.

3－14. その後の愛媛大学

愛媛大学文理学部は、1968年、法文学部・理学部に分かれた。

愛媛大学は、その後、農学部（1954年）、医学部（1973年）、社会共創学部（2016年）を設置して、現在では、法文学部、教育学部、社会共創学部、理学部、医学部、工学部、農学部の7学部となっている。

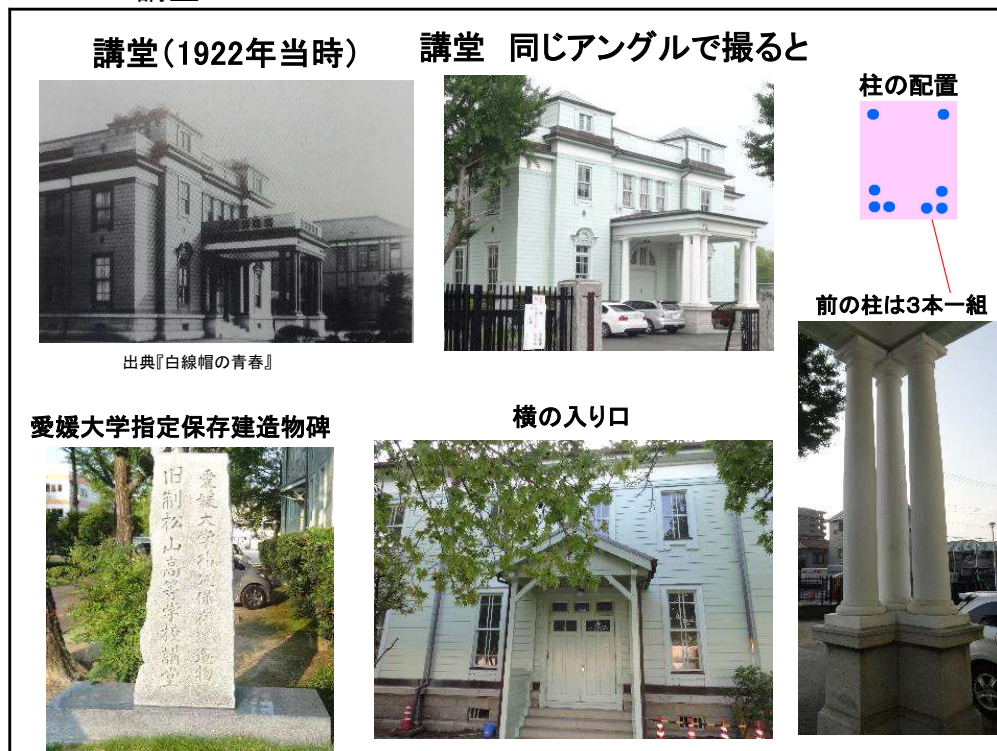
現在は4つのキャンパスがある。

- ①城北キャンパス：法文学部 教育学部 社会共創学部 理学部 工学部
- ②重信キャンパス：医学部
- ③樽見キャンパス：農学部（附属高等学校）
- ④持田キャンパス：（附属中学校・小学校・幼稚園）

4. 今に残る松山高校の跡

松山高校の跡が今でもいくつか残されている。①講堂、②正門、③正門前の石碑群である。

4-1. 講堂



松山高校の講堂は、空襲でも焼けることなく、現在でも残っている。旧制高校の遺産としてたいへん貴重である。

中を案内していただいた先生に感謝

現在は、愛媛大学附属中学校の講堂として使われている。道路から敷地内の講堂を見ることができる。しかし、よく見るためには、近づいて見てみたい。せっかくここまで来たので、できれば中も見たい。そこで、附属中学校の守衛室で聞いてみたところ、「学校の事務室で許可を取れば見学可能」とのことだった。行ったのは平日の午後6時頃だったので、難しいとは思いながらも、事務室に行って「外から写真を撮ってすぐ帰るので、見学してよいか」と聞いてみたら、見学してよいとのことだった。喜んで講堂の周りを歩いて写真を撮ったり、中を覗いていたりしていた。

すると、中学校の先生が、「よかったら中を見学しませんか」と言って、出てきてくれた。そして、カギを開けて、講堂中を見学させてくれた。講堂内の電気をつけて、写真も撮らせていただいた。質問にもいろいろと答えていただいた。今でも中学校の正式の行事では使われているとのこと、改修されているとのことであった。そのせいもあってよく整備されている。

この項を書くにあたっては、この先生の親切に追うところが大きい。この場をお借りして、感謝の意を表したい。

講堂の外観

写真左上は完成当時のものだが、写真右上にあるように、今でもほとんど変わっていない。外壁はきれいな薄青色である。

正面の玄関の張り出しには、柱が立っている。つるつとした柱はトスカナ式である。

柱は8本立っていて、前が3本1組、後ろは1本である。右下の写真のように、3本一組なのは珍しい。

中下の写真のように、建物の横に、出入り口のドアがある。

左下の写真のように、「愛媛大学指定保存建造物 旧制松山高等学校講堂」の碑が立っている。1998年(平成10年)に国の登録有形文化財に登録された。松山市内では初という。

4-2. 講堂の内部

講堂の内部

正面



側面



1949年講堂で行われた愛媛大学開学式



中学校の先生が中を見せてくれたので、様子がわかった。

左上の写真のように、正面に講壇があるが、三角形の屋根がついている。講壇の両側には、外と同じトスカナ式の白い柱が立っている。

壁の色は白で統一されているが、2階の手すり部分だけ、焦げ茶色が使われている。

トスカナ式の白い柱のマジック

右上の写真は、講堂内部の側面である。2階建てになっている。1階は、トスカナ式の白い柱が16本立っていて、柱の外側と内側に分かれるようになっている。また、2階にも16本の柱が立っていて、その周りが回廊になっている。

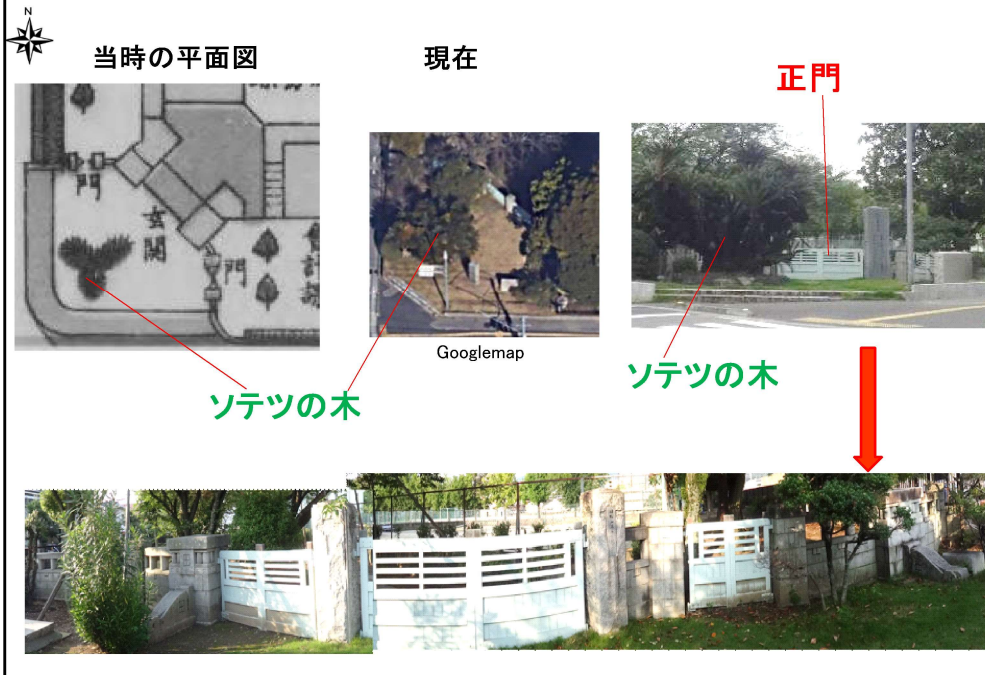
講堂内部の柱とその配置はとても印象的であり、ヨーロッパの雰囲気を出している。他には見られない形式である。

講堂は、式典などがおこなわれたので、内部の写真が残っている。1949年に、旧制松山高等学校は、新制愛媛大学文理学部へと移管されたが、右下の写真は、その開学式の様子である。トスカナ式の白い柱が不思議な雰囲気を出していることがわかる。

このような貴重な建築様式の建物が、戦争を生き延び、壊されることなく今に伝えられてきたことは奇跡のようなことである。旧制高校の貴重な遺産として、今後も守っていただきたいものである。

4－3. 今も残る正門

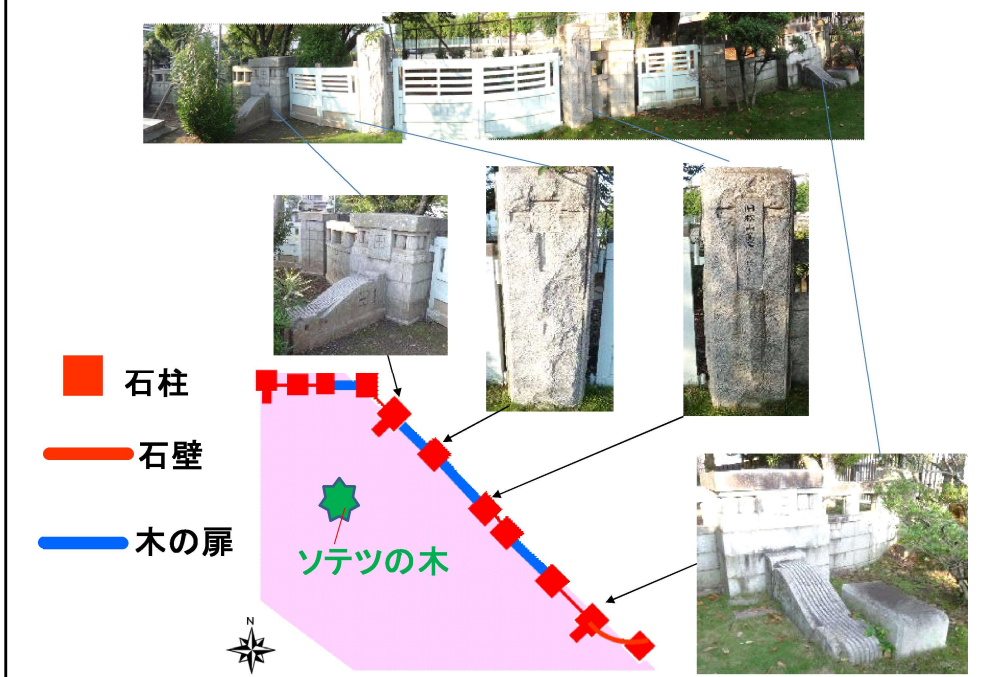
今も残る正門



愛媛大学附属中学校の敷地の南西の角に、松山高校の正門が保存されている。
 左上の地図のように、松山高校のキャンパスの門生の角は、玄関があり、その両脇に門があった。また、玄関の前には、大きなソテツの木が立っていた。
 現在、この地は愛媛大学附属中学校の敷地であるが、中上の写真のように、ちょうどこの三角形だけ切り取られていて、小庭園のようになっており、芝生が植えられている。自由に散歩できる。
 右上の写真のように、今でもここには大きなソテツの木が立っている。
 ソテツの木に隠れて見えにくいのだが、その奥には、松山高校の正門が保存されている。これが下の写真である。また、正門の前には、松山高校に関する石碑が4本たっている。

4-4. 正門の石柱と木の扉

正門の石柱と木の扉



正門のコーナーの形は、少し複雑である。正面には、「旧松山高等学校正門」と彫られた石柱が立ってお

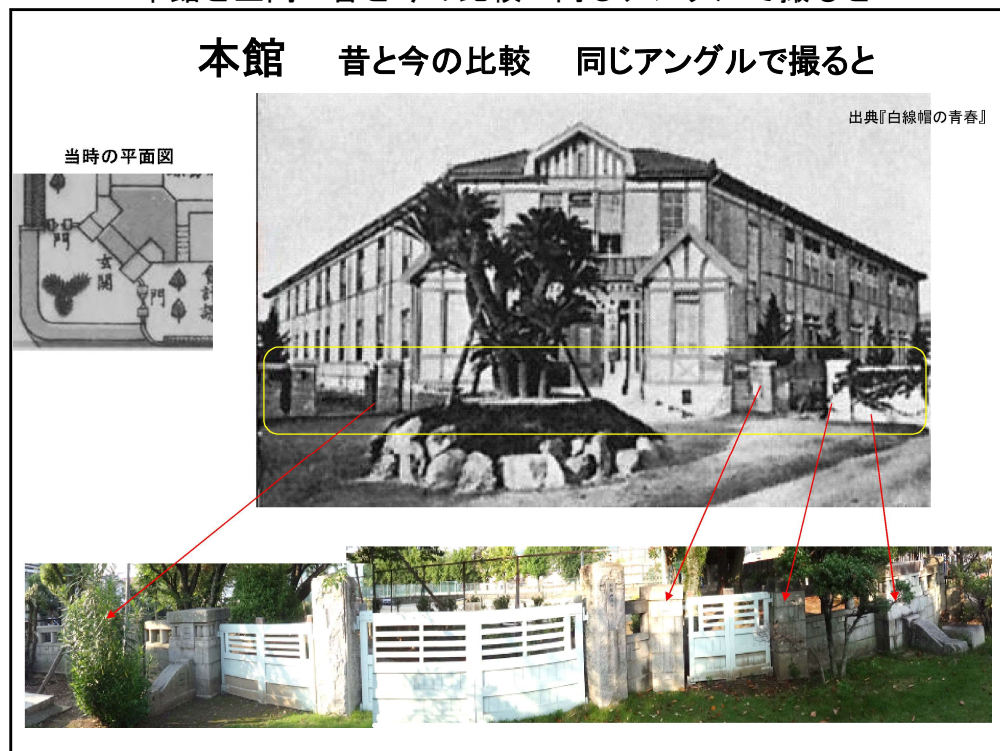
り、木の扉がついている。扉の反対側の石柱には、十字型の紋章が刻まれている。

その両側には、石柱と石壁と木の扉が設置されている。一見すると左右対称に見えるが、実は左右で少しずつ配置が異なり、複雑な形をしている。

両側には、怪獣の足のような（あるいはヨーロッパの教会のガーゴイルのような）形をした飾りが突き出ている。

地図で見る限り、当時の玄関と両側の門は、左右対称をしている。したがって、現在のこの形は、必ずしも当時の門を忠実に再現しているわけではなさそうだ。当時使われていた石柱や石壁を並べて、その間を木の扉でつないで作ったものではなかろうか。

4-5. 本館と正門 昔と今の比較 同じアングルで撮ると



当時の平面図と玄関（写真上）と、現在の石柱（写真下）を比べてみよう。

当時の玄関の平面図と写真を見る限り、正門のような石柱は写っていない。玄関の両側にそれぞれ門がある。それぞれ、両側に門柱が立っていて、間に木の扉がある。いずれも左右対称の配置である。

これに対して、現在の写真を見ると、正門の石柱と間に木の扉がある。しかし、これは当時ではなかったようだ。

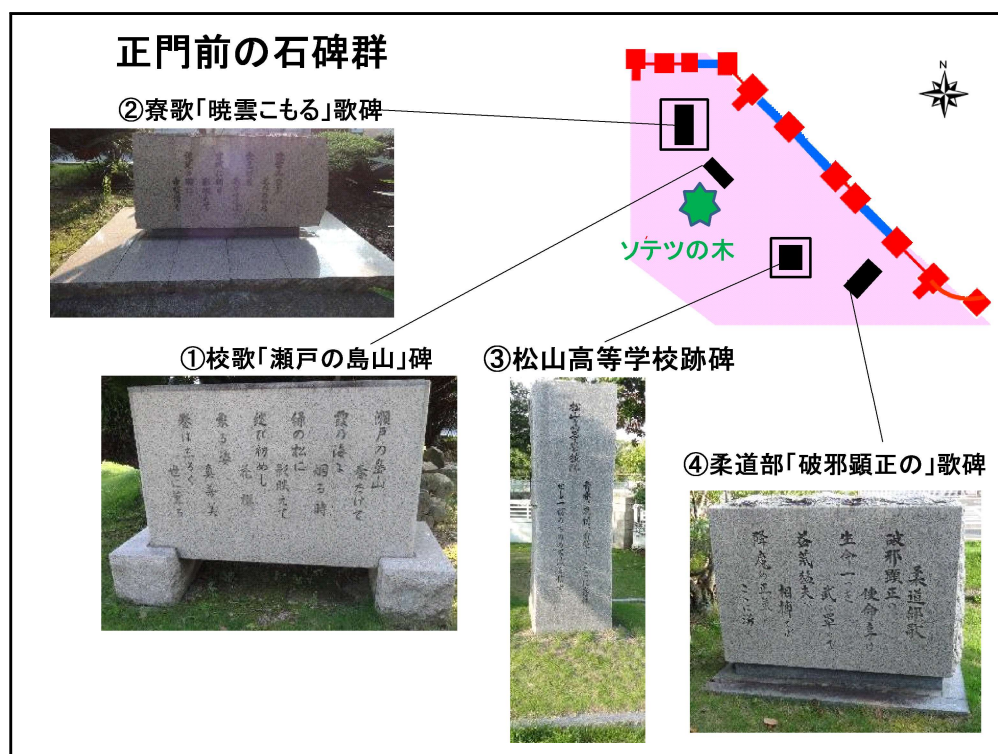
下の写真では、四角の門柱の間に木の扉が両側にある。これらは昔の写真と一致している。また、怪獣の足のような飾りが突き出ている石柱も、上の写真に写っているようにも見える。

ただし、現在の写真では、石柱の配置は左右対称ではない。

したがって、こうした点から、現在の配置は、当時の門を忠実に再現しているわけではないようだ。

おそらく、松山高校にはたくさん門があったので、それらのどれかをここに移築したのではなかろうか。例えば、2-13「寮の生活」には寮の裏門の写真があるが、立派な門柱が立っているのが見える。ここにある門柱の形とは異なるが、それぞれの門に、いろいろな形の門柱が立っていたことはわかる。そうしたいろいろな石柱や石壁をここに集めてきて、その間を石壁や木の扉でつないで作ったのではなかろうか。

4-6. 正門前の石碑群



正門の前の小庭園には、松山高校に関する石碑が4本たっている。古い順に並べると次のようになる。

松山高校 小庭園の石碑群

	碑名	建立年	創立記念
①	校歌「瀬戸の島山」碑	1959年（昭和34年）	創立40周年
②	寮歌「暁雲こもる」歌碑	1969年（昭和44年）4月	創立50周年
③	松山高等学校跡碑	1969年（昭和44年）8月	創立50周年
④	柔道部「破邪顕正の」歌碑	1994年（平成6年）	創立75周年

碑文の内容については、次の文献に詳しく再現されている。

『ああ青春よ我にまた 旧制高等学校碑の旅』松浦濤人、国書刊行会、1996.

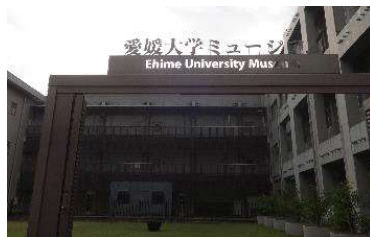
4-7. 愛媛大学ミュージアム 旧制松山高校講堂の模型

愛媛大学ミュージアム

旧制松山高校講堂の模型



愛媛大学城北キャンパス 愛媛大学ミュージアム



愛媛大学城北キャンパスには愛大ミュージアムがある。

ミュージアムの中に、旧制松山高校の講堂の模型が飾られている。前身校である旧制高校についての広報や啓蒙活動である。

閉校から 60 年以上たつと情報はどんどん失われて行くので、このような活動はとても大切である。大学として、このような活動をしていることに対して敬意を表したい。

5. 松山と松山高校生

松山高校とゆかりのある名所は多い。

5－1. 松山城と松山高校生

松山城と松山高校生 昔と今の比較 同じアングルで撮ると



出典『白線帽の青春』



松山高校生たちはよく松山城へ行った。

松山城は、松山市の中心部にあり、松山高校からは約 1.5 キロの場所である。

松山城は、標高 132m の城山（勝山）に立っている。松山の街はこの城山の周りに作られた。山に囲まれた街はたくさんあるが、松山のように山を囲む街というのは珍しいという（西村,2018）。

城山は、市内のどの場所から見ることができるので、ランドマークとなっている。松山高校からも松山城を見ることができた。これまでの写真でもたびたび登場した。

市街地から眺める松山城の風景は迫力があり、一度見たら忘れられない魅力がある（右下の写真）。今はロープウェイとリフトで簡単に登ることができる。

左の写真では、桜の花咲き乱れる松山城をバックにした4人の松山高校生が写っている。

右の写真は、同じアングルから撮ったものである。天守閣はほとんど昔と変わっていないことがわかる。

文献 西村幸夫『県都物語』有斐閣 2018

5－2. 道後温泉と松山高校生

道後温泉本館と松山高校生

昔と今の比較 同じアングルで撮ると



出典『白線帽の青春』



「火の鳥」の
シンボルマーク



出典『白線帽の青春』



松山高校生たちは道後温泉にもよく行った。

道後温泉は、松山高校からは約 750 メートルほどの場所である。前述のように、松山市から道後温泉までは当時も鉄道が通っていて、簡単にいくことができた。歩いても 10 分ほどである。夕方になると、学生たちは誘い合って、手ぬぐいをぶらさげ、寮歌を歌いながら温泉に向かった。

前述の早坂暁の『ダウンタウンヒーローズ』にも出てくるように、道後温泉には遊郭があった。そういえば、漱石の『坊ちゃん』の中にも、遊郭の近くのダンゴ屋でダンゴを食べたら、翌日、生徒達から「遊廓の団子旨い旨い」と黒板にいたずら書きされて、主人公があきれるというシーンがあった。また、赤シャツは、マドンナという女性がいないが、道後温泉の芸者と馴染みとなり、坊ちゃんと山嵐に脅迫されたうえに、殴られる。

道後温泉と松山城は松山の二大名物だが、片や軟、片や硬、何と対局的なものだろうか。司馬遼太郎も、前述のように、松山には道後温泉があって、すべてが駢蕩としているから、松山の人には戦闘心がないと書いている。

道後温泉本館の松高生

道後温泉の本館は木造 3 階で、珍しい形をしている。宮崎駿の『千と千尋の神隠し』に出てくる「油屋」のモデルになったともいわれる。

左上の写真では、道後温泉本館をバックに、5 人の松山高校生が、タオルを首にかけて歩いている。

右上の写真は、同じアングルから撮ったものである。本館の形は当時と変わっていない。奥の高い屋根にある装飾はシラサギである（シラサギがこの温泉を発見したという言い伝え）。また、右側のノレンに書いてあるのは、手塚プロダクションと道後温泉がコラボした「火の鳥」のマークである。

また、左下の写真は、道後温泉本館の 2 階の廊下から、26 人の松山高校生がこちらを見下ろしている。制服を着ている者もいれば、浴衣を着てタオルを巻いている者もある。外のひさしに乗っている学生は裸である。

右下の写真は、同じアングルから撮ったものである。なお、夜になると、建物のこの面は、「火の鳥」のプロジェクトマップに包まれる。

5－3. 道後公園と松山高校

道後公園と松山高校生

昔と今の比較 同じアングルで撮ると



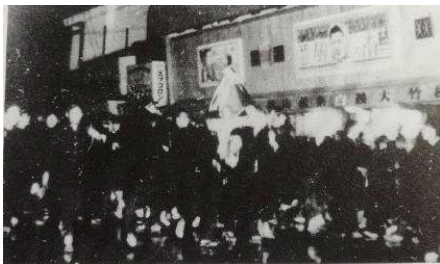
出典『白線帽の青春』



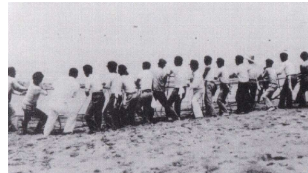
道後温泉の南側に道後公園がある。昔の湯築城の跡である。公園内に子規記念博物館が建っている。
 左の写真では、道後公園の丸太橋の上で8名の松山高校生が写っている。バックには騎馬像が見える。
 右側の写真は、当時と同じアングルと思われる所から撮ったものである。騎馬像は、公園内を探して見たが、いまは撤去されている。池にかかる丸太橋もなくなり、公園内にはコンクリートの小橋が2本かかっており、これはそのうちの1本である。騎馬像のかわりに四阿が作られている。

5-4. 松山市の「大街道」に繰り出してのストーム

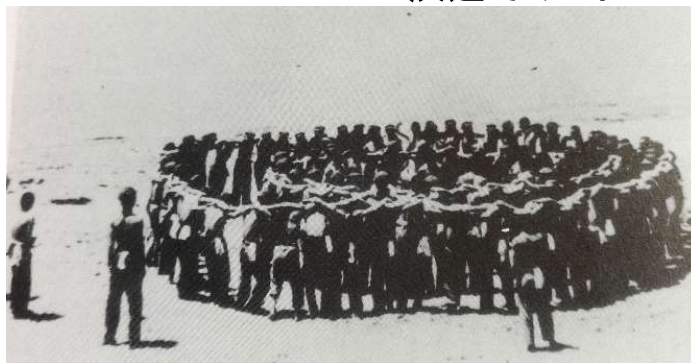
松山市の「大街道」に繰り出してのストーム



三津ヶ浜での地引き網



浜辺でのストーム



出典『白線帽の青春』

旧制高校といえ、ストームで青春を謳歌する姿がイメージされる。
 ストームはおもに寮の中で行われたが、時には町中に繰り出しても行われた。左上の写真は、松山の繁華街である「大街道」（おおかいどう）におけるストームである。「松竹大映」という看板があり、女性のポスターも見えるので、映画館の前である。1942（昭和17）年の戦争中の写真である。校旗らしいものを立てて

歩いている。全員学生服を着ている。学生帽をかぶっている者もいる。右側のほうの学生は、白い手拭いを振り回している。

右下の写真は、五色浜という浜辺でのストームである。裸になり、フンドシをしめて、肩を組み合って、二重の円陣を作っている。

三津ヶ浜での地引き網

右上の写真は、地引き網の時のものである。松山の外港である三津の浜である。ストームではないが、松山高校の年中行事だったようだ。教職員をはじめその夫人達もいっしょに行き、魚を焼き、大きな釜で飯を炊き、酒杯をあげて、語り歌ったという。学校そのものが大家族のようだったと同窓生は語る。

出典『白線帽の青春（西日本編）—写真図説・旧制高等学校』国書刊行会 1988

6. 旧制高校を世界遺産にしよう

旧制高校を世界遺産にしよう

世界史的意義

1. 世界でも最も低年齢で高等教育をおこなった学校システム
2. 世界的視野の教育(外国語重視)をおこない、学生が自主的に勉強した
3. 人格主義的教育をめざし、体験者の評判がきわめて良い

松山高校ベスト3

松山高等学校のベスト3をあげておこう。

1. 由比質校長の神話

初代校長の由比質の校風づくりやエピソードは、当時の旧制高校の雰囲気をもよく伝える。

2. 今に残る講堂

旧制高校の建物がしだいに減っていく中で、当時の講堂が今に残り、よく管理されていることは奇跡に近い。

3. 『ダウンタウンヒーローズ』と道後温泉

作者の早坂暁は当時の旧制高校の魅力を簡潔に語っている。

愛媛に行く機会があったら、ぜひ松山高校の跡を訪ねていただきたい。

旧制高校を世界遺産にしよう

もっといえば、私は「旧制高校を世界遺産に」することを提案している。世界史的に見ても、その意義は大きいものがある。

1. 世界でも最も低年齢で高等教育をおこなった学校システム
2. 世界的視野の教育(外国語重視)をおこない、学生が自主的に哲学を

勉強した

3. 人格主義的教育をめざし、体験者の評判がきわめて良い

旧制高校は、全国に 38 校作られた。日本だけでなく、台北、ソウル、旅順にも作られた。

旧制高校を体験した最後の世代は 80 歳である。今のうちに保存しないと、これほど貴重な教育遺産が失われてしまう。

●使用した写真は、出典を示していないものは自分で撮影したものである。

<参考文献>

『白線帽の青春（西日本編）—写真図説・旧制高等学校』国書刊行会 1988

『わが青春・旧制高校』篠原史憲 ノーベル書房 1969

『青春風土記 旧制高校物語 1』週刊朝日編 朝日新聞社 1978

『ああ青春よ我にまた 旧制高等学校碑の旅』松浦濤人 国書刊行会 1996

『資料集成 旧制高等学校全書（全 8 巻）』旧制高等学校資料保存会編 昭和出版 1981

「アンケートー基礎演習を自己検証する」丹野義彦. 『知の技法ー東京大学教養学部「基礎演習」テキスト』1994 に所収

『愛媛県の歴史』山川出版社

『愛媛県の歴史散歩』山川出版社

『広がれ！ ふるさと松山の心：ふるさと松山学』松山市教育委員会 2018

『県都物語』西村幸夫 有斐閣 2018

司馬遼太郎『坂の上の雲』文春文庫

夏目漱石『坊ちゃん』青空文庫

<参考サイト>

『華麗なる旧制高校巡礼』

データベース『えひめの記憶』

愛媛大学ホームページ

国立国会図書館デジタルコレクション

今昔マップ

Googlemap

●元に戻る

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/tanno/>